

## 江戸の掘井戸の分布の決定要因

池村 早織

## 要旨

近世、江戸では人口の増加に伴い、より多くの水を確保する必要に迫られた。水を供給した施設として、河川を水源とする上水、地下水を汲み上げた掘井戸が発掘調査でも検出されている。これまで、上水の研究は考古学でも、他の様々な分野でも活発的に行われてきた。一方で、掘井戸に関する研究は乏しく、特に考古学的な視点で江戸全域を対象とした検討は皆無に等しい。この現状を踏まえ、掘井戸の利用の実態を明らかにすることを通して、より立体的に江戸の水インフラの様相を復元することを目的に研究を行った。本稿では、発掘調査で検出された掘井戸を広く集成し、その分布の決定要因を一般化線形回帰分析で明らかにすることを試みた。回帰モデルの選択の上で参考とできる類似の研究が乏しいため、複数のモデルの比較を行ったうえで、ハードル負の二項分布モデルを採用した。自然環境・社会環境の両者に着目し、地形・場の性格・上水利用の有無・江戸城からの距離という計4つの説明変数をモデルに組み込んでいる。今回のモデルでは、程度の差はあれ、いずれも掘井戸数と相関があるという推定結果が得られた。特に、低地における利用の低調さを裏付けると共に、武家地において掘井戸があまり作られなかったことが示唆された。この社会環境による影響の背景に関しては、予備的ではあるが、明治初頭実施された井戸数の調査や人口統計を参照し、多角的に考察を加えた。偏回帰係数を比較したところ、地形よりも場の性格が大きな影響を与えていることもまた確認された。自然環境に伴う地下水の利用の差異は知られていたが、今回の結果は社会環境という新たな視点の重要性を示している。

## 1. はじめに

水は人間の生活に欠かせないものであり、飲料水や雑用水、あるいは農業用水など様々な形で用いられてきた。本稿では、近代以前最大の上水であった玉川上水・神田上水を擁し、地下水という「近い」水源も複合的に活用していた都市・江戸に着目して、水インフラと社会について考察していく。

江戸の上水については文献史学・工学・法学などの諸分野において、様々な問題意識のもと研究されてきた（伊藤 1996；神吉・渡部 1988；坂詰 1999 など）。考古学においても 1980 年代以降、上水に関連する遺構が発掘されるにつれ研究が進展している（古泉 2011）。一方、江戸の掘井戸利用・整備に関するまとまった史料は多く残されておらず、文献史学における研究は低調である。考古学では、江戸遺跡で普遍的に検出されているにも関わらず、各遺跡の状況が整理される程度で、江戸全体を見通す研究は未だなされていない。この研究上の空白をなくすためには、江戸府内の掘井戸の集成を行い、その分布を確認することが必要である。さらに、自然・社会環境や上水通水域との比較を行うことで、掘井戸の分布を決定づけた背景を

考察し、水インフラの様相をより立体的に復元することを目指す。

## 2. これまでの研究と課題

## 2-1. 江戸の水利

『上水記』を始め、近世の水利施設に関する様々な文献史料が残されている。水利の研究は「水道史」をまとめた堀越（1981）に始まり、今日にいたるまで進展し続けてきた。これらの研究を参照し、江戸における水利用の概略を述べる。

主な給水手段として、江戸には上水と掘井戸、水屋が存在していた。上水は神田川・多摩川を主な水源とし、樋線を通じ市中各所に水を送った（橋本・矢作 2012）。特に、玉川上水と神田上水は 17 世紀前半に着工・完成し、以降主要な上水として明治初頭まで用いられた（伊藤 1996）。上水の流路は武家地を優先した設計であったことが指摘されている（伊藤 1978；波多野 1989）。

掘井戸については『甲子夜話』などで江戸での隆盛さが言及されている（堀越 1981）。18 世紀には技術が改良され、より地下深くまで掘削する掘抜井戸が江戸でも作られるようになった。『塵塚談』には、安価に

なって以後盛んとなり、19世紀前半には一町辺り3、4箇所もあったとの記載が残る。水屋とは上水の余剰を回収し、主に水に恵まれない本所・深川の周辺へ運搬・販売したものである（松平1985）。

水インフラに関わる研究の関心の1つに水の用途がある。神吉（1994）は、上水の利用目的として生活用水・防火用水・泉水・濠・下水を挙げ、考察を加えている。掘井戸の用途は『江戸自慢』や『守貞謾稿』、明治時代の雑誌記事から伺うことができ、飲用水ないし生活雑用水であったようである（東京経済雑誌社1888；堀越1981；松平1985）。2つの用途でどちらが重要であったかは、場所・水質により異なった。例えば、台地に比べると、塩水が混じる低地の地下水の水質は悪く、飲用に不適であったと言われている。

## 2-2. 掘井戸の考古学的研究

地域・時代を横断する考古学的な井戸の研究は日色・山本らによる体系化に端を発した（日色1967；山本1970）。後に、宇野により型式分類が行われ（宇野1982）、鐘方がこれらの研究を集約し、研究を進展させた（鐘方2003）。

中近世の掘井戸を対象を絞り、分布・形態の変遷や自然環境との関わりを分析する研究も各地で実施されている（飯森1998；遠藤2018；近世研究プロジェクトチーム1998, 1999, 2000；鈴木1990など）。特に、鈴木（1990）の分析により、埼玉県域では自然堤防上に多く分布していると明らかにされた。自然堤防の地下水位が高く掘井戸を作りやすい一方で、土が崩れやすく作り直しの回数が多かったのではないかと、地形の特質にその原因を求めている。

江戸遺跡でも掘井戸は一般的に検出されてきた。その形態は円筒状を主とし、素掘り、あるいは桶を井戸側とするものが多い。図1はその一例である。円筒状の本体に土坑が付帯し、井戸側の腐敗とみられる土層が確認されている。

江戸遺跡における掘井戸の研究として、いくつかの遺跡で形態の分類やその背景の考察が行われている

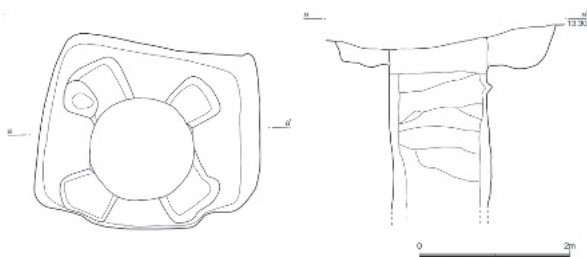


図1 江戸の掘井戸の一例

（井汲1996；石崎2021；川西1999；千代田区紀尾井町遺跡調査会1988；都立学校調査団1997；堀内1989）。分布に関係するところでは、近世初期の掘井戸数には身分差がある可能性が指摘されている（川西1999）。ただし、茅町遺跡周辺の調査結果のみを基にしており、検討範囲は限られている。

## 2-3. 問題の所在

最大の課題は、水インフラの一部としての掘井戸の位置付けが未だ明らかにされていない点にある。この原因として、考古学的な研究それ自体と複眼的研究の不足を指摘したい。現状、江戸の掘井戸の考古学的研究はほとんど遺跡単位での検討に留まり、地域を包括的に扱った検討がされていない。関東近郊まで視点を広げても近年の発掘調査成果を反映した広域的な研究は皆無といえる。それゆえ文献史学の成果と合わせた検討も進んでいない。通時的な掘井戸の位置を文献から知ることは難しいことから、数多く行われている江戸遺跡の発掘調査成果を活かすことには大きな意義がある。

この問題点を受け、本研究では江戸市中における掘井戸の分布に着目し、一般化線形回帰分析でその決定要因を探る。先行研究の成果から、その要因は自然環境、社会環境両方にあると仮定し、検討を加えた。

## 3. 研究の方法

### 3-1. 用語の定義

井戸とは「水を汲みとるために溜めておく処」（堀越1981：2）のように定義される施設である。古くは、水を溜め汲み上げられる場所であれば、湖沼など自然の水場、人工的に作り出した場所の区別をせずに「井」と呼称した（鐘方2003）。また、単に井戸と言う場合、利用する水源は地下水に限られていない。江戸遺跡では、地下水を利用する掘井戸に加え、上水を利用する上水井戸、汲み置きをする溜井戸が確認されている。そのため、本論文では「地下水を利用する」施設に着目していると明示的に示すため「掘井戸」の語を用いた。いずれの種類に当たるか判別不可能なものについて述べる場合や包括的に述べる場合には単に「井戸」と呼ぶ。

より深い地下水を利用するために異なる工法が採られた掘抜井戸も存在した。利用する帯水層が異なることはその使用目的とも関係するため、区別して扱うことの重要性は言うに及ばない。しかしながら、安全管理上の規定から江戸遺跡で井戸址を底まで調査する事例は少なく、掘抜井戸と断定可能な遺構は非常に稀である。本論文では、特別言及する場合を除き掘井戸の

うちに包含して扱う。地下水を利用する施設で、上水を水源としないという点から、本論文の目的では妥当であると判断した。

集成する際には、報告書で井戸と報告される遺構から上水井戸と溜井戸を除く全てを掘井戸として扱っている。上水井戸か否かは、報告書内の記載を参考にしつつ、穿孔の無い底板・樋との接続痕が確認されるかどうかで判断した<sup>1)</sup>。地下水の利用を疑問視する明確な記載<sup>2)</sup>がある遺構に関しては溜井戸と考えた。掘井戸のうちでも未完成の井戸とされるものは対象外とした。その他、報告書で井戸と記載がある遺構は、詳細な図面が無い、あるいは個別の説明が無い遺構を含め、全て集成した<sup>3)</sup>。

### 3-2. 対象

前述の「掘井戸」を以下の地理的・年代的基準に基づき集成した。江戸の地理的範囲・近世の定義などは古泉(1987)が紹介しているところを参考にした。

地理的範囲は1都市を包括した研究とする目的から江戸府中とした。江戸の範囲を示すものとして、1818年に幕府により公表された「朱引内」がある。これを参考に江戸遺跡の範囲が、江東区・新宿区・墨田区・台東区・中央区・千代田区・文京区・港区内とされている(埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会2024)ことを受け、本研究でも同8区を対象に定めた<sup>4)</sup>。

年代は近世以降、すなわち、徳川家康が関東に入学以降に廃棄された遺構を対象とした。本論文の関心は、近世以降、人口が増加し、上水が作られた時期における掘井戸の役割にあるため、中世以前の遺構は含めない。一方で、近世に作られ、近代まで継続して使われた井戸址も多く報告されている。制度面から見ても、近代水道が開設されるのは1898年であり(東京都編1954)、それ以前の給水システムには共通性があると考えられる。そのため、本研究では近代の掘井戸も集成対象とした<sup>5)</sup>。

### 3-3. 説明変数の設定

本項では、自然環境、社会環境など掘井戸の分布の決定要因をどのようにモデルへ組み込んだか説明する。

自然環境に関係して、台地と低地の地下水の水質の違いはよく知られている。これを受け、本研究でも各遺跡をその立地からローム台地、低地に分類した。細分化しないことで結果の解釈を容易にする効果も期待できる。具体的には、まず遺跡の所在地をGIS上に表示した。報告書記載の住所をCSVアドレスマッ

ピングサービス(<https://geocode.csis.u-tokyo.ac.jp/geocode.cgi/geocode.cgi?action=start>)に入力し、経緯度へ変換した。適切な結果を得られない場合には直接住所を入力でき、地図との対比がその場で可能であるGeocoding.jp(<https://www.geocoding.jp/>)を適宜活用している。精度を上げるため、報告書記載の経緯度は用いていない。複数の住所が報告書に記載されていた場合は、任意の1つを用いた。実際の遺跡位置との多少のずれや、1遺跡内を1点で代表させることとの限界は認めねばならないが、多くのデータを統一的な基準で扱うことを優先した。地形情報は、東京における20万分の1土地分類基本調査のデータを活用している。遺跡位置を表すポイントと、地形区分を示すポリゴンの重なりから、各地点を「ローム台地」と「低地」に分類した<sup>6)</sup>。

社会環境としては以下の観点を取り上げた。まずは、遺跡の場の性格、すなわち、どの身分階層のものがその掘井戸を利用していたのかを検討した。これは、上水が武家地優先の設計である(伊藤1978;波多野1989)ことを受け、掘井戸の多寡への影響も考えるに値すると判断したためである。本研究では、報告書の記述に基づき武家地・町地・その他に分類し、前2つのみを回帰分析に用いた。移り変わりがある場合、あるいは1報告書に2つ以上の性格を備える土地の成果が含まれ、それが分離できない場合は適宜分析対象から外した<sup>7)</sup>。町地・武家地のみを分析対象としたのは、結果の解釈を容易にするとともに、江戸の居住者構成(内藤1975)からふさわしいと考えたためである。

もう1つ、上水の利用にも着目した。その遺跡で上水を利用していたか否かを考える際の課題の1つは、掘井戸の年代決定の難しさである。詳しくは後述するが、本研究では時期区分を行っていない。このため、上水の敷設・廃止時期を含めた議論は断念し、樋線図からその地点への上水の通水を判断することも諦めた。代わって、上水井戸が検出されているか否かを上水利用の有無を示す指標として利用することに決めた。

以上に加え、掘井戸の分布は時期によっても異なる様相を示すと考えられる。掘抜井戸など技術の開発は掘井戸数を増やし、社会の変化によっても利用の度合いは変化するだろう。しかしながら、井戸の年代決定の難しさは既に指摘されており(近世研究プロジェクトチーム1999)、江戸遺跡で確からしい年代推定がなされた掘井戸は限定的である。このため、本研究では近代水道敷設以前の水インフラの様相を一括して議論することとした。これを補うため、極めて限定的では

あるが、江戸城からの距離を説明変数として導入し、時期による社会の変化の影響をモデルに組み込むことを試みた。これは、江戸の範囲は時期を下るごとに拡大したことに基づき（東京都都政資料館 1956）、早くに都市域となった場所において掘井戸が多いと仮定している。分析の上では、前述の方法でGIS上に各遺跡のポイントを落とし、江戸城跡（千代田区千代田1-4）からの距離を計測した。他の説明変数の係数とサイズを比較するため、平均が0、分散が1となるように標準化して扱っている。

各遺跡の掘井戸数には発掘調査面積が大きな影響を与えると考えられる。その影響を取り除くため、他の説明変数とは異なる形でモデルに反映させている。調査面積は報告書記載の値を用い、明記していない報告書に関しては分析対象から外した。

### 3-4. 分析の方法

調査面積が明記されているなど分析の条件を満たした報告書のうち806冊から3084基の掘井戸を収集した。場の性格・住所により適宜分割し、武家地・町地の地点を抜き出すと598地点あった。これを一般化線形回帰分析の対象とした。

非負のカウントデータを扱う回帰モデルの代表例にポアソン回帰がある。ただし、本研究のデータに適用したところ、過分散の傾向が見られたため、負の二項分布モデルがより適していると判断した。合わせて、掘井戸数がゼロの遺跡も多い（ゼロ過剰）。このようなデータを扱うモデルにはゼロ過剰モデル、ハードルモデルがあり、背後に想定される構造が異なる。今回は掘井戸が検出されるまでのハードルが高いという想定のもと、ハードルモデルを選択した。掘井戸の分布に対し回帰分析を行った事例が管見の限り確認できなかったため、モデルの評価も含めて結果に示した。

本研究で用いる負の二項分布ハードルモデルでは、掘井戸数が0基になる場合と、1基以上の場合とを区別して扱う。以降は前者をハードルパート、後者をカウントパートと呼び、扱う。共通の説明変数は前述した4変数とした。自然環境、場の性格、上水井戸の有無はダミー変数として扱っている。調査面積は、カウントパートにはオフセット項、ハードルパートには説明変数の1つとして取り入れた。説明変数の1つとするときには、標準化した。有意性は5%水準で判断した。

### 3-5. 明治期における井戸調査の分析

前述の通り、回帰モデルにより、掘井戸の分布に影響を与えた要因とその強さの推測を行った。この分析

における因果関係を別角度から検討し、蓋然性を上げるため、明治期の井戸に関わる調査の分析を行った。衛生調査の一環として、近代水道が東京に通水する以前の1888年ごろに、掘井戸数・上水井戸数が警察署単位で調査されている。この調査成果から人口と井戸数の相関係数を算出した。具体的には、掘井戸数、上水井戸数は主に『大日本私立衛生會雑誌』（大日本私立衛生会 1888）を、人口は同年の『東京府統計書』を参考にしている。

## 4. 結果

### 4-1. 概観

図2に掘井戸数のヒートマップを地形区分と対比する形で示した。調査面積の影響を除くため、その逆数で重み付けをしている。濃い黒色を示す場所、すなわち掘井戸が密度高く確認された場所は、中央区の一部を除き、ローム台地上に多いことが読み取れる。場の性格で区分したときの100㎡あたりの掘井戸数を表1に示した。全体として町地で単位面積当たりの掘井戸数が多いという傾向が確認できた。

表1 場の性格別単位面積当たりの掘井戸数

場の性格	100㎡あたりの掘井戸数 [基/㎡]
武家地	0.22
町地	0.54

### 4-2. モデルの評価

ポアソン回帰モデル・負の二項分布モデル、後者の中でのハードルモデル・ゼロ過剰モデルを比較した結果を示したのが表2である。モデルの当てはまりの指標として使われるAIC、BICを用い、評価を行った。ポアソン回帰モデル・負の二項分布モデルを比較すると、後者の当てはまりが良いと判断できる。合わせて、

表2 モデルの比較

	AIC	BIC	推定された掘井戸0基の遺跡数
ポアソン分布	3955.7	3977.7	188
負の二項分布	2540.3	2566.6	148
ゼロ過剰負の二項分布	2531.0	2583.7	221
ハードル負の二項分布	2609.1	2661.9	203

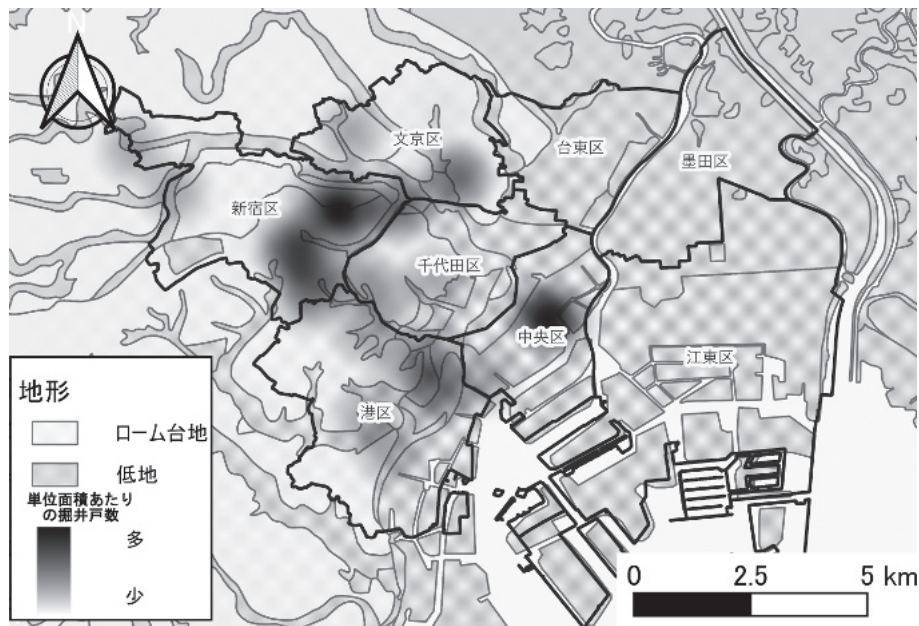


図2 遺跡で検出された掘井戸数のヒートマップ

ポアソン回帰モデルの残差逸脱度を残差自由度で割った値は 4.5 で、過分散の傾向が確認できた。一方で負の二項分布を用いた際、掘井戸数が 0 基の遺跡数の推定値は 148 遺跡で、真の値である 203 遺跡よりも著しく少ない。

ゼロ過剰を扱うハードルモデルとゼロ過剰モデルを比較した結果を示す。AIC、BIC はゼロ過剰モデルの当てはまりが良いと示している。一方で掘井戸数が 0 基の遺跡数の推定に関してはハードルモデルの当てはまりが良い。両モデルの相違点はゼロ過剰の構造の想定にあるため、掘井戸数 0 基の遺跡数に関する当てはまりを重視し、ハードル負の二項分布モデルを採用した。

### 4-3. モデルによる推定

ハードル負の二項分布モデルによる推定の結果は表 3 の通りであった。ハードルパートにおいては偏回帰係数が正であるほど、掘井戸を設ける確率が高い。対して、カウントパートでは係数が正であるほど、その地点での掘井戸数が多くなることを示している。ダミー変数を導入して扱った説明変数の偏回帰係数は、もう一方に対する傾向を示すものである。例えば、「場の性格（武家地）」の偏回帰係数は、町地と比べた場合の変化量を表している。

ハードルパートでは、全ての説明変数が有意に影響を与えていた。カウントパートでは、地形と場の性格のみ有意性を示していた。両者の偏回帰係数の絶対値を比較すると、場の性格の方が 2 倍以上のサイズであった。その他の説明変数は 5% 水準で有意性を持た

ないだけでなく、回帰係数の絶対値も小さく、掘井戸数への影響は乏しい。説明変数の影響の推定結果を個別に確認する。

武家地・低地では両パートの偏回帰係数が共に負であった。すなわち、掘井戸を設ける確率が低く、調査面積あたりに検出される掘井戸数も少ない傾向を示した。対して、同遺跡内に上水井戸を持つ場合、掘井戸を設ける確率が高まるものの、数量に対しては有意に影響しない。また、江戸城から遠く離れるほど、掘井戸を設ける可能性が低下する。江戸城からの距離が変化しても掘井戸数は大きく変化しない。

### 4-4. 明治期の調査

人口密度と上水井戸数、掘井戸数のデータとその散布図を示す（表 4, 図 3）。人口と上水井戸数の相関係数は 0.38 でわずかに正の相関があった。一方で、掘井戸数と人口の相関係数は -0.31、掘井戸数と上水井戸数では -0.70 と共に負の相関関係を示した。

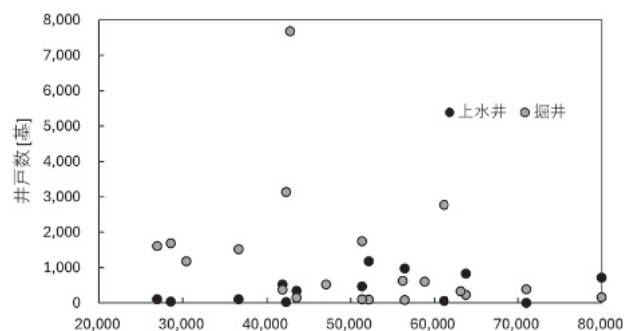


図3 井戸数と人口

表4 近代の井戸数と人口

警察署名	人口	上水井	掘井
京橋	79,946	717	162
坂本町	52,173	1,175	91
久松町	56,419	975	78
和泉町	51,348	473	108
愛宕町	63,792	831	231
麻布	36,631	109	1,516
高輪	30,404	-	1,180
麴町	43,530	343	154
赤坂	28,543	34	1,685
四ッ谷	26,940	110	1,610
牛込	42,789	-	7,676
小川町	41,860	526	373
小石川	42,284	22	3,137
本郷	61,147	64	2,779
猿屋町	63,174	-	331
田町	56,181	-	625
下谷	70,976	2	391
富岡門前	42,103	-	-
八名川	58,798	-	607
元町	51,353	-	1,748
吾妻橋	47,071	-	529
	1,047,462	5,381	25,011

## 5. 考察

採用したモデルでは、全ての説明変数が掘井戸の分布に影響を与えていた。その影響の様相や、背景について考察を加える。まずは、地形に関して、低地では掘井戸を設けないことが多く、設けてもその数量は少ない傾向にあることが明らかになった。すなわち、低地で掘井戸の利用が低調であったことを考古学的な視点から裏付ける結果である。掘抜井戸でない場合、雑用水に用途が限られたこと（伊藤 1996；堀越 1981）を反映し、台地上に比べ鑿井にも消極的であったと考えられる。

一方で、上水を利用した場所では、掘井戸も利用した確率が高く、数量的な減少も有意に見られないという傾向を示した。この結果は、水源の選択が単純な二者択一ではなかった可能性を示唆する。末端部では湧水が生じていた（伊藤 1996）など自然流下式の江戸の上水は安定的な水の供給に課題を抱えていたことや、特に台地上では上水が生活用水以外に利用されていたこと（神吉 1994）などがその状況の背景として考えうる。ただし、この結果は、4 - 4項で検討した、上水井戸数が多い区で掘井戸数が少ないという近代初頭の様相とは異なっていることに注意する必要がある。分析単位の違いには留意しなければならないが、今回のモデルでは、上水と掘井戸が同時に利用されているか否かを考慮していないことが結果に影響を及ぼした可能性もある。

町地に比べ、武家地では掘井戸をあまり利用せず、利用する場合でも、単位面積当たりに設けた掘井戸数が少ないことが確認できた。掘井戸をそもそも設けないことについては、江戸の上水が武家地を優先した流路になっていたため（伊藤 1978；波多野 1989）、掘井

表3 推定結果

	ハードルパート			カウントパート		
	偏回帰係数	z値	有意性	偏回帰係数	z値	有意性
切片	2.11	6.13	***	-4.78	-25.66	***
場の性格_武家地	-0.61	-2.18	*	-0.85	-4.46	***
地形_低地	-0.65	-3.17	**	-0.39	-2.60	**
上水井戸_あり	0.83	2.34	*	-0.15	-0.83	
江戸城からの距離	-0.26	-2.59	**	-0.09	-1.25	
Log (theta)				-0.02	-0.12	
調査面積	3.72	5.60	***			

統計的有意水準: \*\*\* p<0.001, \*\* p<0.01, \* p<0.05

戸を設ける必要性が乏しかった可能性が指摘できる。掘井戸の多寡について人口密度との関係から考えたい。江戸では、町地の人口密度が高かったことが知られており、18世紀前期で武家地の5倍以上であったとされる(内藤1975)。人口密度が高いほど、その場所で必要とされる水量が増え、より多くの掘井戸を設けたと推察できる。一方で、近代の調査結果では、掘井戸数と人口にはわずかに負の相関関係が確認されるなど、人口密度の影響が支配的であるとはいえない。『塵塚談』には、特に初期の掘抜井戸の鑿井コストが高かったために、武士はあまり作ることができなかったという記載が残る。経済力は考察に値する観点であるが、今回のモデルでは使用者の属性の扱いは身分で一括したため、議論を深めることはできなかった。

江戸城からの距離が遠いほど、掘井戸を利用しない確率がわずかに高まるも、掘井戸数には大きな影響を与えていないことが確認できた。江戸の拡大と関係し、開発が遅れた周縁部で掘井戸数が減少するという仮説とは一致しない結果であった。市街の拡大は同心円状の拡大ではないなど、単純な距離による検討の限界が認められる。時期に伴う社会変化による影響を考察するには適切な変数変換を施し、モデルを工夫する必要がある。

先行研究では、掘井戸の利用に関して自然環境との関係で論じられることが多かった。本研究を通し、身分という社会環境から掘井戸数への影響の強さが確認できた。上水は水銀や新規の上水井戸設置への規制(安藤2012)など、厳しい幕府の管理下にあったことが知られている。共に水インフラを構成していた掘井戸も単に自然環境のみで利用の程度が決まるものではなく、社会的な設備であったことを反映した結果であると解釈できる。

## 6. おわりに

本研究では、一般化線形回帰分析という手法を用い、地形・場の性格・上水利用の有無・江戸城からの距離という4つの観点で、掘井戸の分布を説明することを試みた。前節までの検証の通り、いずれも確かに掘井戸の利用に影響を与えていることを明らかにすることができた。これまでの研究では、地形による地下水利用の違いが着目されてきた。社会環境の影響の強さについて確認できたことは、掘井戸研究に新たな視点を与える成果であるといえる。

一方で課題も残された。第一に時期区分が未検討であった。そのため、近世の社会的な変化、上水の開設や廃止時期との関係、掘抜井戸の技術の普及と絡めた考察が困難となった。第二に、採用したモデルでは、

説明変数の交互作用について検討できていない。そのため、身分や地形による水利施設の選択における違いを論じることができなかった。最後に、掘井戸の分布の決定要因の背景の考察は仮説に留まるものであった。モデルに含める説明変数の工夫や文献史料も合わせた多角的な検討で、仮説の蓋然性を高めていく作業が必要となる。

江戸は飲料水に恵まれた都市ではなく、その確保は大きな関心事であった(伊藤1982;橋本・矢作2012)。発掘調査での掘井戸址の検出数、表4に見える近代初頭の掘井戸数から、上水だけでなく地下水の利用も盛んであったことは容易に伺える。今後、上水だけでなく、掘井戸の研究も進展させていくことで、水インフラの利用の様相、すなわち、人々が水とどのように関わっていたのかをより立体的に復元することにつながると期待できる。

## 謝辞

本稿は、2024年度に東京大学に提出した卒業論文の一部に再検討を加え、大幅に書き改めたものである。また、同内容で江戸遺跡研究会第197回例会で発表を行っている。執筆に際しては、堀内秀樹先生、福田正宏先生の両指導教員をはじめ、考古学研究室の根岸洋先生、森先一貴先生、新井才二先生のご指導を賜った。また、統計的な分析の実施にあたっては、東京大学数理・情報教育センター データサイエンス・コモンズからご助言をいただいた。末筆ながら記して感謝申し上げます。

## 註

- 1) 但し上水井戸から掘井戸へ作り替えているものは対象とした。また、掘井戸に樋が接続され、水源として活用されたものも対象とした。
- 2) 「湧水層に到達していない」・「溜井戸」といった表記のほか、「井戸状遺構」、「井戸か?」などの記載を指す。ただし、ごみ穴の可能性を指摘するものに関しては、しばしば火災後の始末に井戸を活用しているように、途中で用途を変更した可能性を考え、対象に含めた。
- 3) 複数の掘井戸同士が接続した遺構が存在するが、分割して集成した。水源が地下水であることを重視し、その目的による除外は行っていない。池の底にある掘井戸も区別なく集成した。
- 4) 渋谷区・新宿区にまたがる発掘調査(東京都埋蔵文化財センター2009『千駄ヶ谷大谷戸遺跡・内藤町遺跡(環状第5の1号線地区)』)については新宿区に含まれる調査成果のみを活用した。掘削深度を浅い範囲に留める調査に関しては分析対象から除外した。
- 5) ただし近代でも新しいコンクリート製の井戸は対象外とした。
- 6) 住所から経緯度に変換する際、実際の位置とずれが生じる

が、時間の都合上、手動で修正してはいない。これに伴い、新川二丁目遺跡が20万分の1土地分類基本調査の地図の範囲外となり地形情報を与えることができなかった。周囲の地形環境から「低地」として扱った。

- 7) 耕作地から他の性格に変わっている場合のみ、その後の土地利用を場の性格として扱った。文献史学においては、武家地・町地・寺社地はその土地を治める奉行の種類により決められている。今回は直接確認しておらず、あくまで報告書の記載に従っている。加えて、居住者の身分による分類であり、牢屋敷など居住以外と判断した遺跡の性格はその他として扱っている。庭園は屋敷の一部であることから武家地に含めた。報告書に明記されていない遺跡で、同地点で別の調査があるものに関しては、そちらの記述を参考にした。

## 引用文献

- 安藤真弓 2012 「町屋の水事情」野中和夫編『江戸の水道』同成社江戸時代史叢書, 同成社, 231-274
- 飯森康広 1998 「江戸初期の井出集落移動に関する：視点 周辺遺跡調査の井戸跡深さをめぐって」『群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』15: 85-100
- 井汲隆夫 1996 「江戸の大縄地に関する考古学的考察：新宿区内発掘の大縄地を中心に」『東京都新宿区百人町三丁目遺跡Ⅲ』: 212-237
- 石崎俊哉 2021 「終章：成果と課題」『新宿区 市谷薬王寺町遺跡Ⅹ』: 264-268
- 伊藤好一 1978 「江戸の水道制度」西山 松之助編『江戸町人の研究 5』吉川弘文館, 283-433
- 伊藤好一 1982 「江戸の水道制度」羽村町教育委員会編『玉川上水論集 1』羽村町史料集; 第8集, 羽村町教育委員会, 257-404 宇野隆夫 1982 「井戸考」『史林』65(5): 623-661
- 伊藤好一 1996 『江戸上水道の歴史』吉川弘文館
- 遠藤崇浩 2018 「輪中における株井戸の発達とその分布について」『地下水学会誌』60(1): 29-40
- 鐘方正樹 2003 『井戸の考古学』ものが語る歴史8, 同成社
- 神郡 周・小川顕道・宮川政運 1981 『塵塚談・俗事百工起源』古典文庫 54, 現代思潮社
- 神吉和夫・渡部恒雄 1988 「江戸水道の基礎的研究 その1: 『上水記』にみる江戸水道の構造と機能」『第8回日本土木史研究発表会論文集』: 274-281
- 神吉和夫 1994 「玉川上水の江戸市中における構造と機能に関する研究」『(財)とうきゅう環境浄化財団研究助成』163
- 川西直樹 1999 「井戸について」『茅町遺跡』: 26-27
- 近世研究プロジェクトチーム 1998 「神奈川県下における近世井戸址の研究(1)」『かながわの考古学: 研究紀要』3: 121-139
- 近世研究プロジェクトチーム 1999 「神奈川県下における近世井戸址の研究(2): 形態変遷の検討」『研究紀要: かながわの考古学』(4): 98-109
- 近世研究プロジェクトチーム 2000 「神奈川県下における近世井戸址の研究(3)」『研究紀要: かながわの考古学』(5): 97-102
- 古泉 弘 1987 『江戸の考古学』考古学ライブラリー 48, ニュー・サイエンス社
- 古泉 弘 2011 「江戸の水: 基調報告」江戸遺跡研究会編『江戸の上水道と下水道』吉川弘文館, 1-9
- 坂詰智美 1999 『江戸城下町における「水」支配』専修大学出版局
- 鈴木孝之 1990 「古代から中近世の井戸跡について(1): 埼玉県における形態分類を中心として」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』(7): 217-271
- 東京経済雑誌社 1888 「掘井の處分法如何」『東京経済雑誌』(442): 542-544
- 東京都編 1954 『東京市史稿. 上水篇 第4』東京都
- 東京都都政資料館編 1956 『江戸の発達』国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/3010298>
- 千代田区紀尾井町遺跡調査会 1988 『東京都千代田区 紀尾井町遺跡調査報告書』
- 都立学校調査団 1997 『小石川 (I 近世・近代遺構編)』
- 内藤 昌 1975 「江戸の都市構造」西山 松之助・吉原 健一郎編『江戸時代図誌4』筑摩書房, 161-170
- 橋本真紀夫・矢作健二 2012 「地理的環境から見た江戸の水事情」野中和夫編『江戸の水道』同成社江戸時代史叢書, 同成社, 3-20
- 波多野 純 1989 「暗渠の上水の配置計画と城下町の住区設定: 都市施設としての上水を通して見た城下町設計方法の研究 2」『日本建築学会計画系論文報告集』400: 105-114
- 日色四郎 1967 『日本上代井の研究』日色四郎先生遺稿出版会
- 堀内秀樹 1989 「江戸における遺跡検出の井戸理解のための一考察」江戸遺跡研究会第2回大会編『江戸の住空間とその周辺 [発表要旨]』, 8-16
- 堀越正雄 1981 『井戸と水道の話』論創社
- 埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会 2024 『近世・近代の埋蔵文化財保護について (報告)』
- 松平康夫 1985 『東京の水売り』都史紀要 31, 東京都
- 山本 博 1970 『井戸の研究: 考古学から見た』綜芸舎『塵塚談』(大洲市立図書館所蔵) 出典: 国書データベース, <https://doi.org/10.20730/100206518>

## 発掘調査報告書

紙面の都合により一部表記を簡略化している。

## 新宿区

- 妙正寺川No.1遺跡調査会 1987 『妙正寺川No.1遺跡』
- 百人町三丁目遺跡調査会 1987 『百人町三丁目遺跡』
- 西戸山住宅遺跡調査会 1987 『百人町三丁目遺跡』
- 新宿区教育委員会 1988 『三栄町遺跡』
- 戸山遺跡調査会 1991 『戸山遺跡 本文編・図版編』
- 新宿区教育委員会 1991 『自證院遺跡』
- 新宿区内藤町遺跡調査会 1992 『内藤町遺跡』
- 新宿区西早稲田地区遺跡調査会 1993 『下戸塚遺跡』
- 新宿区市谷本村町遺跡調査団 1993 『尾張藩徳川家上屋敷跡』
- 東京オペラシティ建設用地内埋蔵文化財調査団 1993 『西新宿三丁目遺跡』
- 新宿区南町遺跡調査団 1994 『南町遺跡』
- 新宿区荒木町遺跡調査団 1994 『荒木町遺跡』
- 新宿区三栄町遺跡調査団 1994 『三栄町遺跡 VI』

- 新宿区市谷本村町遺跡調査団 1995 『市谷本村町遺跡 尾張藩徳川家上屋敷跡』
- 新宿区百人町三丁目遺跡調査団 1995 『百人町三丁目遺跡Ⅳ』
- 新宿区教育委員会 1995 『市谷仲之町西遺跡第1次調査』
- 新宿区遺跡調査会・市谷仲之町遺跡 1995 『市谷仲之町遺跡Ⅲ』
- 新宿区法光寺跡調査団 1995 『法光寺跡』
- 東京都埋蔵文化財センター・東京都教育委員会 1996 『尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅰ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 30
- 新宿区住吉町遺跡調査団 1996 『住吉町遺跡Ⅱ』
- 新宿区市谷加賀町一丁目遺跡調査団 1996 『市谷加賀町一丁目遺跡Ⅰ』
- 新宿区下戸塚遺跡調査団 1996 『下戸塚遺跡Ⅱ』
- 新宿区遺跡調査会 住吉町遺跡 1996 『住吉町遺跡』
- 新宿区百人町三丁目西遺跡調査団 1996 『百人町三丁目西遺跡Ⅰ』
- 新宿区遺跡調査会 百人町三丁目遺跡 1996 『百人町三丁目遺跡Ⅲ』
- 新宿区市筑土八幡町遺跡調査団 1996 『筑土八幡町遺跡』
- 新宿区遺跡調査会 住吉町遺跡 1996 『若松町遺跡』
- 地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡調査会 1996 『江戸城外堀跡四谷御門外橋詰・御堀端通・町屋跡』
- 地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡調査会 1996 『江戸城外堀跡四谷御門外町屋跡』
- 地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡調査会 1996 『江戸城外堀跡市谷御門外橋詰・御堀端』
- 東京都埋蔵文化財センター 1997 『尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅱ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 40
- 新宿区袋町遺跡調査団 1997 『新宿区牛込城址(江戸時代武家屋敷地の調査)』
- 新宿区遺跡調査会 1997 『住吉町西遺跡Ⅰ』
- 新宿区市谷加賀町二丁目遺跡調査団 1997 『市谷加賀町二丁目Ⅰ』
- 新宿区消防署改築予定地遺跡調査団 1997 『百人町三丁目西遺跡Ⅱ』
- 新宿区百人町遺跡調査会 1997 『百人町三丁目西遺跡Ⅲ』
- 新宿区内藤町遺跡調査団 1997 『内藤町遺跡Ⅱ』
- 新宿区南山伏町遺跡調査団 1997 『南山伏町遺跡』
- 新宿区愛住町遺跡調査団 1997 『愛住町遺跡Ⅰ』
- 新宿区西早稲田3丁目遺跡調査会 1997 『西早稲田3丁目遺跡Ⅱ』
- 東京都埋蔵文化財センター 1998 『尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅲ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 53
- 新宿区喜久井町遺跡調査団 新宿歴史博物館 1998 『喜久井町遺跡Ⅰ 早稲田大学喜久井町キャンパス地点』
- 新宿区大日本印刷遺跡調査団 1998 『市谷佐内町遺跡Ⅰ』
- 放射第6号線遺跡調査団 1998 『住吉町南遺跡・市谷台町遺跡・住吉町西遺跡Ⅱ』
- 新宿区四谷一丁目遺跡調査団 1998 『四谷一丁目遺跡』
- 新宿区司法書士会館遺跡調査団 1998 『四谷一丁目遺跡Ⅱ』
- 新宿区市谷仲之町西遺跡調査団 1998 『市谷仲之町西遺跡Ⅱ』
- 新宿区王子不動産遺跡調査団 1998 『市谷仲之町遺跡Ⅳ』
- 新宿区市谷薬王寺町遺跡調査団 1998 『市谷薬王寺町遺跡Ⅱ』
- 新宿区No.102遺跡調査団 1998 『松平摂津守上屋敷跡下水暗渠』
- 新宿区補助第72号線遺跡調査会 1998 『百人町三丁目遺跡Ⅴ』
- 新宿区筑土八幡町遺跡調査団 1998 『筑土八幡町遺跡Ⅱ』
- 新宿区若宮町遺跡調査団 1998 『若宮町遺跡』
- 新宿区荒木町遺跡調査団 1998 『荒木町遺跡Ⅱ』
- 新宿区No.85遺跡調査団 1999 『尾張徳川家下屋敷跡Ⅲ』
- 東京都埋蔵文化財センター 1999 『尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅳ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 70
- 新宿区市谷本村町遺跡調査団 1999 『市谷本村町遺跡Ⅳ 尾張藩徳川家上屋敷跡』
- 新宿区信濃町遺跡調査団 1999 『信濃町遺跡 創価世界女性会館地点』
- 新宿区滋賀県職員寮遺跡調査団 1999 『市谷仲之町遺跡Ⅴ』
- 新宿区払方町遺跡調査団 1999 『払方町遺跡』
- 新宿区正定院遺跡調査団 1999 『正定院跡』
- 新宿区法光寺跡遺跡調査団 1999 『法光寺跡Ⅱ』
- 東京都埋蔵文化財センター 2000 『尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅴ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 85
- 新宿歴史博物館 2000 『新宿区喜久井町遺跡Ⅱ』
- 新宿区No.107遺跡調査団 2000 『北新宿二丁目遺跡Ⅱ』
- 新宿歴史博物館 2000 『南山伏町遺跡Ⅲ』
- 新宿区河田町遺跡調査団 2000 『河田町遺跡』
- 新宿歴史博物館 2000 『四谷一丁目遺跡Ⅲ』
- 新宿区若宮町遺跡調査団 2000 『若宮町遺跡Ⅱ』
- 新宿歴史博物館 2000 『若葉一丁目遺跡』
- 新宿歴史博物館 2001 『内藤町遺跡Ⅲ』
- 新宿歴史博物館 2001 『南伊賀町遺跡』
- 東京都埋蔵文化財センター 2001 『尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅵ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 87
- 東京都埋蔵文化財センター 2001 『尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅶ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 97
- 東京都埋蔵文化財センター 2001 『尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅷ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 98
- 加藤建設 2001 『四谷一丁目南遺跡』
- 新宿区生涯学習財団 2001 『尾張徳川家下屋敷跡』
- 加藤建設 2001 『市谷加賀町二丁目遺跡Ⅱ』
- 新宿歴史博物館 2001 『新宿一丁目遺跡Ⅰ(仮称)御苑タワーマンション地点』
- 新宿歴史博物館 2001 『四谷二丁目遺跡』
- 新宿歴史博物館 2001 『市谷田町一丁目遺跡』
- 新宿歴史博物館 2001 『市谷薬王寺町遺跡Ⅲ』
- 大成エンジニアリング 埋蔵文化財調査室 2001 『牛込城址Ⅱ』
- 新宿区淀橋市場遺跡調査団 2001 『百人町三丁目西遺跡Ⅳ』
- 大成エンジニアリング 埋蔵文化財調査室 2001 『馬場下町遺跡』
- リメックス 2001 『西早稲田三丁目遺跡Ⅴ』
- 東京都埋蔵文化財センター 2002 『内藤町遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 118
- 東京都埋蔵文化財センター 2002 『尾張藩上屋敷跡発掘調査報告書Ⅷ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 114
- 東京都埋蔵文化財センター 2002 『尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅸ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 113
- 東京都埋蔵文化財センター 2002 『尾張藩上屋敷跡遺跡発掘

- 調査報告書Ⅺ 東京都埋蔵文化財センター調査報告 119  
東京都埋蔵文化財センター 2002 『市谷本村町（尾張藩上屋敷跡）—市ヶ谷西地区—』東京都埋蔵文化財センター調査報告 115  
東京都埋蔵文化財センター 2002 『市谷本村町遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 109  
東京都埋蔵文化財センター 2002 『弁天町遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 116  
新宿歴史博物館 2002 『坂町遺跡』  
新宿歴史博物館 2002 『市谷仲之町西遺跡Ⅲ』  
テイケイトレード 2002 『市谷甲良町遺跡Ⅱ』  
テイケイトレード 2002 『白銀町遺跡』  
大成エンジニアリング 2002 『神楽坂四丁目遺跡』  
新宿歴史博物館 2002 『市谷砂土原町三丁目遺跡』  
新宿区生涯学習財団 2002 『水野原遺跡』  
東京都埋蔵文化財センター 2003 『信濃町南遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 135  
加藤建設 2003 『四谷一丁目遺跡Ⅳ』  
テイケイトレード 2003 『若宮町遺跡Ⅲ』  
新宿歴史博物館 2003 『行元寺跡』  
大成エンジニアリング 2003 『信濃町南遺跡』  
新宿区戸山遺跡調査会 2003 『尾張徳川家下屋敷跡Ⅱ』  
三井住友建設 東京土木支店 2003 『市谷田町二丁目遺跡Ⅱ』  
三井住友建設 東京土木支店 2004 『東京都 新宿区 市谷薬王寺町遺跡Ⅳ』  
加藤建設 2004 『南山伏町遺跡Ⅳ』  
新宿歴史博物館 2004 『原町二丁目遺跡 旧牛込町小学校跡地地点』  
共和開発 2004 『四谷四丁目遺跡』  
第三開発 2004 『大京町東遺跡』  
新宿歴史博物館 2004 『天龍寺跡』  
テイケイトレード 2004 『宝泉寺跡Ⅱ』  
テイケイトレード 2004 『白銀町西遺跡・白銀町遺跡Ⅱ』  
大成エンジニアリング 2004 『四谷一丁目南遺跡Ⅱ』  
新宿歴史博物館 2004 『筑土八幡町遺跡3次調査』  
四門 2004 『蜀江山遺跡』  
東京都埋蔵文化財センター 2005 『新宿六丁目遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 163  
加藤建設 2005 『信濃町南遺跡Ⅲ』  
加藤建設 2005 『市谷仲之町遺跡Ⅵ』  
東京都埋蔵文化財センター 2005 『市谷加賀町二丁目遺跡Ⅲ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 177  
東京都埋蔵文化財センター 2005 『市谷本村町遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 176  
テイケイトレード 2005 『市谷田町二丁目遺跡Ⅳ』  
テイケイトレード 2005 『若宮町遺跡Ⅳ』  
大成エンジニアリング 2005 『崇源寺・正見寺跡』  
東京都埋蔵文化財センター 2006 『尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅻ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 180  
新宿区教育委員会 2006 『四谷二丁目遺跡Ⅱ』  
加藤建設 2006 『市谷仲之町遺跡Ⅶ』  
大成エンジニアリング 2006 『市谷砂土原町三丁目遺跡Ⅱ』  
国際航業 2006 『百人町三丁目遺跡Ⅵ』  
テイケイトレード 2006 『筑土城跡』  
加藤建設 2006 『若宮町遺跡Ⅴ』  
東京都埋蔵文化財センター 2007 『内藤町遺跡（環状第5の1号線地区）』東京都埋蔵文化財センター調査報告 202  
テイケイトレード 2007 『坂町遺跡Ⅱ』  
加藤建設 2007 『市谷仲之町遺跡Ⅷ』  
大成エンジニアリング 2007 『市谷砂土原町三丁目遺跡Ⅲ』  
テイケイトレード 2007 『矢来町遺跡Ⅱ』  
岡三リビック 2007 『南町遺跡Ⅵ』  
加藤建設 2007 『四谷一丁目遺跡Ⅴ』  
共和開発 2007 『水野原遺跡Ⅲ』  
ダイサン 2008 『信濃町遺跡Ⅱ』  
加藤建設 2008 『市谷仲之町遺跡Ⅸ』  
テイケイトレード 2008 『市谷柳町遺跡』  
東京都埋蔵文化財センター 2008 『徳川家下屋敷跡Ⅴ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 219  
テイケイトレード 2008 『新宿四丁目遺跡』  
テイケイトレード 2008 『水野原遺跡Ⅱ』  
テイケイトレード 2008 『神楽坂四丁目遺跡Ⅱ』  
四門 2008 『若葉三丁目遺跡』  
四門 2008 『北新宿二丁目遺跡Ⅵ』  
東京都埋蔵文化財センター 2008 『柏木淀橋町遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 222  
東京都埋蔵文化財センター 2008 『若松町遺跡Ⅱ（豊前小倉藩下屋敷跡遺跡）』東京都埋蔵文化財センター調査報告 217  
東京都埋蔵文化財センター 2009 『千駄ヶ谷大谷戸遺跡・内藤町遺跡（環状第5の1号線地区）』東京都埋蔵文化財センター調査報告 233  
東京都埋蔵文化財センター 2009 『新宿区 戸山ヶ原上ノ台遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 232  
加藤建設 2009 『山吹町遺跡』  
加藤建設 2009 『市谷田町三丁目遺跡』  
大成エンジニアリング 2009 『市谷甲良町遺跡Ⅲ』  
テイケイトレード 2009 『市谷薬王寺町遺跡Ⅵ』  
テイケイトレード 2009 『矢来町遺跡Ⅲ』  
四門 2009 『宝泉寺跡Ⅲ』  
大成エンジニアリング 2009 『市谷加賀町二丁目遺跡Ⅴ』  
共和開発 2009 『水野原遺跡Ⅳ』  
東京都埋蔵文化財センター 2010 『内藤町遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 246  
東京都埋蔵文化財センター 2010 『水野原遺跡Ⅴ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 252  
大成エンジニアリング 2010 『柏木成子町遺跡』  
加藤建設 2010 『笹筒町遺跡』  
大成エンジニアリング 2010 『落合遺跡Ⅴ 学校法人目白学園地点 第14次発掘調査』  
東京都埋蔵文化財センター 2011 『市谷仲之町遺跡Ⅹ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 263  
東京都埋蔵文化財センター 2011 『百人町三丁目西遺跡Ⅶ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 259  
四門 2011 『信濃町南遺跡Ⅳ』  
大成エンジニアリング 2011 『四谷四丁目遺跡Ⅲ』  
共和開発 2011 『市谷仲之町西遺跡Ⅴ』  
有限会社CEL 2011 『市谷仲之町西遺跡Ⅳ』  
加藤建設 2011 『市谷田町一丁目遺跡Ⅱ』  
テイケイトレード 2011 『新小川町遺跡』

- 東京都埋蔵文化財センター 2012 『尾張徳川家下屋敷跡Ⅶ』  
東京都埋蔵文化財センター調査報告 276
- 四門 2012 『三栄町遺跡Ⅻ』
- 加藤建設 2012 『余丁町遺跡』
- 大成エンジニアリング 2012 『筑土八幡町遺跡Ⅳ』
- 共和開発 2012 『四谷三丁目遺跡Ⅳ』
- テイケイトレード 2012 『大京町遺跡』
- 共和開発 2012 『市谷田町二丁目遺跡Ⅴ』
- 大成エンジニアリング 2012 『払方町遺跡Ⅱ』
- 新宿区地域文化部 2013 『三栄町遺跡Ⅺ』
- CEL 2013 『南町遺跡Ⅷ』
- 大成エンジニアリング 2013 『富久町遺跡』
- 共和開発 2013 『尾張徳川家下屋敷跡Ⅶ』
- 加藤建設 2013 『市谷砂土原町三丁目遺跡Ⅳ』
- 共和開発 2013 『白銀町西遺跡Ⅲ』
- 武蔵文化財研究所 2013 『白銀町遺跡Ⅲ』
- 加藤建設 2013 『若葉三丁目遺跡Ⅱ』
- 共和開発 2013 『尾張徳川家下屋敷跡Ⅷ』
- 東京都埋蔵文化財センター 2014 『市谷本村町遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 294
- 東京都埋蔵文化財センター 2014 『新宿区 市谷薬王寺町遺跡Ⅴ・市谷柳町遺跡Ⅱ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 292
- 東京都埋蔵文化財センター 2014 『新小川町遺跡Ⅱ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 289
- 武蔵文化財研究所 2014 『市谷左内町遺跡Ⅱ』
- 大成エンジニアリング 2014 『市谷甲良町遺跡Ⅴ』
- 新宿区地域文化部文化観光課 2014 『市谷砂土原町三丁目遺跡Ⅴ』
- CEL 2014 『龍谷寺跡』
- 共和開発 2014 『若松町遺跡Ⅲ』
- 大成エンジニアリング 2015 『北町遺跡』
- 国際文化財 2015 『南元町遺跡Ⅲ』
- 四門 2015 『南榎町遺跡Ⅲ』
- 新宿区 2016 『信濃町南遺跡Ⅶ』
- 東京航空業研究所 2016 『信濃町南遺跡Ⅵ』
- 新宿区 2016 『北町遺跡Ⅱ』
- 四門 2016 『尾張徳川家下屋敷跡Ⅸ』
- CEL 2016 『市谷仲之町西遺跡Ⅵ』
- 加藤建設 2016 『若葉三丁目遺跡Ⅲ』
- 四門 2016 『西早稲田一丁目遺跡』
- パスコ 2016 『三栄町遺跡ⅩⅢ』
- 東京都埋蔵文化財センター 2017 『左門町遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 327
- 東京都埋蔵文化財センター 2017 『新宿区 霞ヶ丘町遺跡・渋谷区 千駄ヶ谷北ノ脇遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 319
- 加藤建設 2017 『山吹町遺跡Ⅱ』
- テイケイトレード 2017 『船町遺跡Ⅱ』
- 共和開発 2017 『市谷甲良町遺跡Ⅵ』
- テイケイトレード 2017 『市谷薬王寺町遺跡Ⅸ』
- 国際文化財 2017 『西新宿六丁目遺跡』
- 新宿区教育委員会 加藤建設 2017 『江戸城外堀跡 市谷掘<外堀公園地点の発掘調査>』
- 東京都埋蔵文化財センター 2018 『市谷柳町遺跡Ⅲ・南榎町遺跡Ⅳ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 333
- 四門 2018 『信濃町南遺跡Ⅸ』
- 加藤建設 2018 『信濃町南遺跡Ⅷ』
- 大成エンジニアリング 2018 『尾張徳川家下屋敷跡Ⅹ』
- 東京都埋蔵文化財センター 2018 『市谷本村町遺跡(第1分冊)(第2分冊)』東京都埋蔵文化財センター調査報告 332
- テイケイトレード 2018 『新小川町遺跡Ⅲ』
- 東京都埋蔵文化財センター 2018 『若宮町遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 337
- 東京都埋蔵文化財センター 2019 『四谷一丁目南遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 342
- イビソク 東京本社 2019 『原町三丁目遺跡』
- 東京航空業研究所 2019 『宝泉寺跡Ⅳ』
- 新宿区・大成エンジニアリング 2019 『富久町北遺跡』
- 大成エンジニアリング 2019 『尾張徳川家下屋敷跡Ⅺ』
- 加藤建設 2019 『山吹町遺跡Ⅲ』
- CEL 2019 『市谷田町二丁目遺跡Ⅵ』
- CEL 2019 『市谷甲良町遺跡Ⅷ』
- 新宿区 2019 『牛込城跡Ⅵ』
- 中野技術 2019 『穴八幡神社遺跡Ⅱ』
- 大成エンジニアリング 2019 『落合遺跡Ⅵ 学校法人目白学園地点 第15次発掘調査』
- 東京都埋蔵文化財センター 2020 『四谷一丁目遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 350
- 特定非営利活動法人 井草文化財研究所 2020 『北新宿二丁目遺跡Ⅶ』
- 特定非営利活動法人 井草文化財研究所 2020 『市谷田町三丁目遺跡Ⅱ』
- 特定非営利活動法人 井草文化財研究所 2020 『市谷甲良町遺跡Ⅶ』
- 新宿区文化観光産業部文化観光課 2020 『船町遺跡Ⅲ』
- 四門 2020 『若葉三丁目遺跡Ⅳ』
- 共和開発 2020 『尾張藩徳川家下屋敷跡Ⅻ』
- 国際文化財 2021 『市谷加賀町一丁目遺跡Ⅱ』
- 東京都埋蔵文化財センター 2021 『市谷本村町遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 359
- 東京都埋蔵文化財センター 2021 『市谷本村町遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 361
- 東京都埋蔵文化財センター 2021 『市谷薬王寺町遺跡Ⅹ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 363
- テイケイトレード 2021 『四谷一丁目南遺跡Ⅴ』
- 四門 2021 『四谷一丁目遺跡Ⅸ』
- 加藤建設 2021 『四谷一丁目遺跡Ⅶ』
- パスコ 2021 『市谷加賀町一丁目遺跡Ⅲ』
- 加藤建設 2021 『市谷加賀町二丁目遺跡Ⅶ』
- 東京航空業研究所 2021 『市谷田町三丁目遺跡Ⅲ』
- 大成エンジニアリング 2021 『水野原遺跡Ⅶ』
- 新宿区 2021 『矢来町遺跡Ⅸ』
- パスコ 2021 『納戸町遺跡第2次調査』
- 中野技術 2022 『山吹町遺跡Ⅳ』
- 四門 2022 『市谷柳町遺跡Ⅳ(緑雲寺旧寺域)』
- 武蔵文化財研究所 2022 『市谷甲良町遺跡Ⅺ』
- 大成エンジニアリング 2022 『新宿四丁目遺跡Ⅱ』
- テイケイトレード 2022 『荒木町遺跡Ⅲ』
- 東京都埋蔵文化財センター 2023 『市谷本村町遺跡』東京都

埋蔵文化財センター調査報告 377

加藤建設 2023 『四谷一丁目遺跡Ⅷ』

東京航業研究所 2023 『船町遺跡Ⅳ』

大成エンジニアリング 2023 『若葉一丁目遺跡Ⅱ』

東京都埋蔵文化財センター 2023 『納戸町遺跡Ⅲ』 東京都埋蔵文化財センター調査報告 379

## 墨田区

墨田区錦糸町駅北口遺跡調査団 1996 『錦糸町駅北口遺跡Ⅰ』

墨田区錦糸町駅北口遺跡調査団 1996 『錦糸町駅北口遺跡Ⅱ』

墨田区江東橋二丁目遺跡調査団 1997 『江東橋二丁目遺跡』

墨田区横川一丁目遺跡調査会 1999 『横川一丁目遺跡』

墨田区横網一丁目埋蔵文化財調査会 2002 『本所御所跡・陸軍被服廠跡』

墨田区教育委員会 2002 『江東橋二丁目遺跡Ⅱ』

墨田区太平四丁目埋蔵文化財調査会 2003 『太平四丁目遺跡』

東京簡裁隅田分室埋蔵文化財調査会 2007 『肥前平戸新田藩松浦家下屋敷跡』

墨田区教育委員会 2011 『大雲寺跡・No.18 遺跡発掘調査報告書』

墨田区教育委員会 2011 『太平一丁目遺跡』

墨田区教育委員会 2011 『陸奥弘前藩津軽家上屋敷跡』

墨田区教育委員会 2014 『本所一丁目遺跡』

墨田区教育委員会 2014 『錦糸四丁目遺跡』

墨田区教育委員会 2014 『本所一丁目27遺跡』

墨田区教育委員会 2016 『千歳三丁目遺跡』

CEL 2016 『永隆寺跡』

墨田区教育委員会 2016 『陸奥弘前藩津軽家上屋敷跡Ⅱ』

大成エンジニアリング 2017 『本庄松平家下屋敷跡』

墨田区教育委員会 2018 『江東橋二丁目遺跡Ⅲ』

CEL 2018 『陸奥弘前藩津軽家上屋敷跡Ⅲ』

イビソク 2018 『江東橋二丁目遺跡Ⅳ』

CEL 2019 『文花一丁目遺跡』

大成エンジニアリング 2019 『法恩寺遺跡』

イビソク東京本社 2020 『六間堀跡』

テイケイトレード・井草文化財研究所 2020 『千歳三丁目遺跡Ⅱ』

イビソク東京本社 2020 『本所竹蔵後邸跡』

共和開発 2020 『江東橋二丁目遺跡Ⅴ』

墨田区教育委員会・大成エンジニアリング 2022 『亀沢一丁目遺跡』

墨田区教育委員会・大成エンジニアリング 2022 『亀沢四丁目遺跡』

墨田区教育委員会 2022 『六間堀跡Ⅱ』

国際文化財 2022 『本所一丁目遺跡Ⅱ』

ノガミ 2022 『東向島二丁目遺跡』

国際文化財 2022 『靈山寺遺跡』

ノガミ 2023 『千歳一丁目遺跡』

墨田区教育委員会 2023 『南本所石原町跡』

ノガミ 2023 『本所一丁目遺跡Ⅱ』

墨田区教育委員会 2023 『東向島四丁目遺跡』

国際文化財 2024 『本所二丁目遺跡』

国際文化財 2024 『江東橋一丁目遺跡』

イビソク 2024 『横網二丁目遺跡』

## 台東区

台東区文化財調査会 1994 『浅草松清町遺跡調査報告書』

国立西洋美術館埋蔵文化財発掘調査委員会 1996 『上野忍ヶ丘遺跡国立西洋美術館地点調査報告書』

東京国立博物館建設工事遺跡発掘調査団 1997 『上野忍岡遺跡 皇太子殿下御成婚記念東京国立博物館平成館（仮称）外構工事地点-I』

東京都国立文化財研究所申請施設建設予定地発掘調査団 1997 『上野忍岡遺跡群』

東京芸術大学発掘調査団 1997 『上野忍岡遺跡群』

東京国立博物館構内発掘調査団 1997 『上野忍岡遺跡群』

湯島貝塚遺跡調査団 1997 『旧岩崎家住宅所在遺跡』

池之端七軒町遺跡調査団 1997 『池之端七軒町遺跡（慶安寺跡）』

台東区文化財調査会 1999 『上野忍岡遺跡群 国立国会図書館支部上野図書館地点』

台東区文化財調査会 1999 『上野忍岡遺跡群 JR 上野駅東西自由通路建設地点』

台東区文化財調査会 1999 『上野忍岡遺跡群 上野動物園防火貯水槽建設地点』

台東区文化財調査会 1999 『浅草寺西遺跡』

台東区文化財調査会 1999 『茅町遺跡』

台東区文化財調査会 2000 『谷中三崎町遺跡』

台東区文化財調査会 2001 『上三崎南遺跡』

台東区文化財調査会 2001 『上野忍岡遺跡群 国立国会図書館支部上野図書館地点Ⅱ』

台東区文化財調査会 2001 『上野忍岡遺跡群 国立科学博物館おれんじ館地点』

台東区文化財調査会 2001 『西町遺跡』

台東区文化財調査会 2002 『上車坂町遺跡 東上野四丁目9番地点』

台東区文化財調査会 2002 『雷門遺跡 雷門二丁目18番地点』

台東区文化財調査会 2003 『上車坂町遺跡 東上野四丁目8番地点』

台東区文化財調査会・台東区教育委員会 2003 『上野忍岡遺跡群 国立科学博物館新館Ⅱ期建設工事地点（第2～6次調査）』

台東区文化財調査会 2003 『二長町東遺跡 台東一丁目34番地点』

台東区文化財調査会 2003 『浅草菊屋橋遺跡／No.66遺跡』

台東区文化財調査会 2004 『No.68 遺跡 常磐新線（仮称）新浅草駅東側出入口地点』

台東区文化財調査会 2004 『上野忍岡遺跡群 上野動物園ゾウ舎地点』

東京都埋蔵文化財センター 2005 『台東区 向柳原遺跡』 東京都埋蔵文化財センター調査報告 169

台東区文化財調査会 2005 『浅草寺遺跡 日本堤消防署二天門出張所地点』

台東区文化財調査会 2005 『芝崎町三丁目遺跡 西浅草三丁目27・28版地点』

台東区文化財調査会 2005 『西町遺跡 東上野二丁目23番地点』

台東区文化財調査会 2005 『台東区（文京区）茅町二丁目遺跡池之端一丁目5番地点（本郷台遺跡群・湯島両門町遺跡

湯島四丁目12番地点)』  
 台東区文化財調査会 2006 『中根岸遺跡 根岸三丁目12番地  
 防災広場地点』  
 台東区文化財調査会 2006 『南元町遺跡 蔵前二丁目8番地  
 地点』  
 台東区文化財調査会 2006 『谷中下三崎遺跡 谷中五丁目5  
 番地地点』  
 加藤建設 2007 『上野広小路遺跡』  
 台東区文化財調査会 2007 『浅草千束町二丁目遺跡 千束三  
 丁目20番地地点』  
 共和開発 2008 『上車坂町遺跡 東上野四丁目8・9番地地  
 点』  
 台東区文化財調査会 2008 『池之端七軒町南遺跡 宗教法人  
 大本東京本部地点』  
 台東区文化財調査会 2008 『龍泉寺町遺跡』  
 ジオダイナミック 2009 『No.120 遺跡 浅草二丁目11番地地  
 点』  
 大成エンジニアリング 2009 『三好町遺跡 蔵前二丁目16番  
 地地点』  
 台東区教育委員会 2009 『仲御徒町三丁目遺跡 上野五丁目  
 27番地地点 第1次調査』  
 テイクイトレード 2009 『向柳原町一丁目遺跡』  
 加藤建設 2009 『東京都台東区芝崎町二丁目遺跡』  
 東京芸術大学埋蔵文化財発掘調査団 2010 『上野忍岡遺跡群』  
 東京芸術大学構内遺跡発掘調査報告書2  
 台東区文化財調査会 2010 『上野忍岡遺跡 上野桜木一丁目  
 15番地点』  
 台東区文化財調査会 2010 『上野忍岡遺跡 上野桜木二丁目  
 4番地点』  
 台東区文化財調査会 2010 『上野忍岡遺跡群 上野桜木一丁  
 目10番地』  
 テイクイトレード 2010 『中根岸遺跡 根岸三丁目12番40号  
 地点』  
 台東区文化財調査会 2010 『二長町北遺跡 台東一丁目34番  
 地点』  
 台東区文化財調査会 2010 『二長町東遺跡 台東一丁目35番  
 地点』  
 ジオダイナミック 2010 『仲御徒町三丁目遺跡 上野五丁目  
 27-8地点 第2次調査』  
 台東区文化財調査会 2010 『入谷遺跡 下谷二丁目1番地点』  
 台東区文化財調査会 2010 『入谷遺跡 下谷二丁目2番地点』  
 台東区文化財調査会 2010 『池之端七軒町遺跡 池之端二丁  
 目1番地点』  
 台東区文化財調査会 2010 『浅草駒形二丁目遺跡 駒形一丁  
 目8番地点』  
 台東区文化財調査会 2010 『芝崎三丁目遺跡 西浅草三丁目  
 28番地点』  
 台東区文化財調査会 2010 『谷中清水町遺跡 池之端四丁目  
 22番地点』  
 台東区文化財調査会 2010 『豊住町遺跡 下谷一丁目5番地  
 点』  
 台東区文化財調査会 2010 『駒形遺跡 駒形一丁目4番地点  
 第1次調査・第2次調査』  
 加藤建設 2010 『東京都台東区下谷同朋町遺跡 上野三丁目  
 26番地点』

加藤建設 2010 『東京都台東区北稲荷町遺跡』  
 テイクイトレード 2010 『浅草松清町遺跡 西浅草一丁目1  
 番8号地点』  
 テイクイトレード 2011 『上野花園町遺跡・上野忍岡遺跡跡  
 群-御花畑地点-』  
 ジオダイナミック 2011 『浅草寺遺跡 浅草二丁目7番地地  
 点』  
 大成エンジニアリング 2011 『浅草福井町遺跡 浅草橋一丁  
 目22番15号地点』  
 加藤建設 2011 『東京都台東区上野忍岡遺跡群 上野恩賜公  
 園竹の台地区』  
 テイクイトレード 2012 『上根岸町遺跡 根岸三丁目6番13  
 号地点』  
 加藤建設 2012 『東京都台東区北稲荷町遺跡(広徳寺跡)』  
 東京都埋蔵文化財センター 2013 『上野忍岡遺跡群 国際子  
 ども図書館地点』 東京都埋蔵文化財センター調査報告 279  
 加藤建設 2013 『浅草松清町遺跡 地下鉄田原町ビル(仮称)  
 建設地地点』  
 共和開発 2014 『上野忍岡遺跡群 日本藝術院収蔵庫地点』  
 加藤建設 2014 『上野忍岡遺跡群 東京国立博物館正門地点』  
 台東区教育委員会 2014 『上野忍岡遺跡群 谷中霊園洪澤家  
 墓所地点』  
 台東区教育委員会 2014 『羽羽橋通り遺跡 電線共同溝整備  
 工事松が谷三丁目地点』  
 加藤建設 2014 『東京都台東区浅草寺遺跡浅草二丁目7番地  
 老人ホーム建設地点』  
 台東区教育委員会・ジオダイナミック 2015 『仲御徒町三丁  
 目遺跡 上野五丁目20番地点 第1・2次調査』  
 大成エンジニアリング 2015 『浅草高原遺跡 寿二丁目3番  
 地「東陽寺」地点』  
 台東区教育委員会・大成エンジニアリング 2017 『二長町東  
 遺跡 台東一丁目35番5号地点』  
 加藤建設 2018 『上野忍岡遺跡群 東京国立博物館管理棟(仮  
 称)地点』  
 テイクイトレード 2018 『東京都台東区浅草永住町遺跡東上  
 野三丁目2地点』  
 東京芸術大学 東京芸術大学発掘調査団 2019 『上野忍岡遺  
 跡群 東京芸術大学校地点(上野グローバルレジデンス地  
 区) 発掘調査報告書』 東京芸術大学内発掘調査報告 3  
 台東区教育委員会 2019 『上野忍岡遺跡群 上野動物園東園  
 無料休憩所地点』  
 アート 2019 『南稲荷町 地下鉄稲荷町ビル(仮称)建設地  
 地点』  
 台東区教育委員会 テイクイトレード 2019 『浅草永住町遺  
 跡 元浅草三丁目18地点』  
 テイクイトレード 2019 『東京都台東区北稲荷町遺跡東上野  
 五丁目7番地点』  
 テイクイトレード 2020 『上野忍岡遺跡群-御花畑地点II-』  
 台東区教育委員会 テイクイトレード 2020 『北稲荷町東遺  
 跡 東上野五丁目5番地点』  
 テイクイトレード 2020 『北稲荷町東遺跡 東上野五丁目6  
 番地点(広徳寺桂香院跡)』  
 加藤建設 2020 『浅草永住町遺跡』  
 テイクイトレード 2020 『東京都台東区浅草寺遺跡 浅草二  
 丁目7番26号地点』

台東区教育委員会 大成エンジニアリング 2021 『北清島町遺跡 東上野六丁目8番11号地点』  
台東区教育委員会 テイクイトレード 2021 『東京都台東区浅草龍泉寺町遺跡』  
台東区教育委員会 2022 『天王寺門前町遺跡』  
島田組 2022 『神吉町遺跡(台東区No.138遺跡) 東上野五丁目10番地点』  
島田組 2023 『竜泉寺町遺跡(台東区No.54遺跡) 竜泉二丁目10番地点』  
東京都埋蔵文化財センター 2024 『台東区 元浅草遺跡』 東京都埋蔵文化財センター調査報告 386

#### 中央区

日本橋二丁目遺跡調査会 2001 『日本橋二丁目遺跡』  
八丁堀三丁目遺跡(第2次)調査会 2003 『八丁堀三丁目遺跡Ⅱ』  
日本橋一丁目遺跡調査会 2003 『日本橋一丁目遺跡』  
明石町遺跡調査会 2003 『明石町遺跡』  
中央区教育委員会 2004 『日本橋蛸殻町一丁目遺跡Ⅱ』  
中央区教育委員会 2005 『日本橋蛸殻町一丁目遺跡』  
東京都埋蔵文化財センター 2005 『明石町(第2次)遺跡』 東京都埋蔵文化財センター調査報告 172  
東京都埋蔵文化財センター 2012 『新川二丁目遺跡』 東京都埋蔵文化財センター調査報告 275  
中央区教育委員会 2013 『日本橋人形町三丁目遺跡Ⅰ』  
中央区教育委員会 2013 『柳原土手跡遺跡』  
中央区教育委員会 2014 『日本橋人形町三丁目遺跡Ⅱ』  
東京都埋蔵文化財センター 2014 『築地五丁目遺跡』 東京都埋蔵文化財センター調査報告 299  
東京都埋蔵文化財センター 2014 『築地五丁目遺跡』 東京都埋蔵文化財センター調査報告 291  
中央区教育委員会 2015 『京橋二丁目遺跡Ⅱ』  
中央区教育委員会 2015 『明石町遺跡Ⅲ』  
中央区教育委員会 2015 『湊一丁目遺跡』  
中央区教育委員会 2016 『伝馬町牢屋敷跡遺跡』  
中央区教育委員会 郷土天文館 2016 『八丁堀二丁目遺跡Ⅱ-2』  
中央区教育委員会 2017 『新川二丁目遺跡Ⅱ』  
中央区教育委員会 2017 『明石町遺跡Ⅳ』  
東京都埋蔵文化財センター 2021 『中央区築地市場跡遺跡』 東京都埋蔵文化財センター調査報告 362  
中央区教育委員会 2021 『日本橋蛸殻町二丁目遺跡』  
中央区教育委員会 2021 『東京都中央区 日本橋馬喰町二丁目遺跡』  
中央区教育委員会 2023 『八丁堀三丁目(第6次)遺跡』  
中央区教育委員会 2023 『八丁堀三丁目(第7次)遺跡』  
中央区教育委員会 2023 『日本橋小伝馬町遺跡』  
CEL 2023 『日本橋馬喰町二丁目(第2次)遺跡』  
中央区教育委員会 2023 『東京都中央区 日本橋兜町遺跡』  
中央区教育委員会 2024 『京橋二丁目遺跡(第4次)遺跡』  
中央区教育委員会 2024 『新川二丁目(第3次)遺跡』

#### 千代田区

都立一橋高校地点発掘調査報告 1985 『江戸 都立一橋高校地点発掘調査報告』

千代田区紀尾井町遺跡調査会 1988 『紀尾井町遺跡調査報告書』  
東京国立近代美術館遺跡調査委員会 1991 『竹橋門 江戸城址北丸竹橋門筑発掘調査報告』  
千代田区教育委員会 1994 『一番町遺跡発掘調査報告書』  
地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡調査会 1994 『和泉伯太藩上屋敷跡』  
紀尾井町6-18遺跡調査会 1994 『尾張藩麹町邸跡』  
千代田区麹町6丁目遺跡調査会 1995 『麹町六丁目遺跡』  
地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡調査会 1995 『江戸城外堀跡 赤坂御門・喰違土橋』  
東京都千代田区教育委員会 1995 『江戸城跡 和田倉遺跡』  
飯田町遺跡調査団 1995 『飯田町遺跡』  
千代田区隼町遺跡調査会 1996 『東京都千代田区隼町遺跡』  
都内遺跡調査会・永田町二丁目地内調査団 1996 『溜池遺跡』  
紀尾井町6-34遺跡調査会 1997 『尾張藩麹町邸跡』  
千代田区丸の内1-40遺跡調査会 1998 『丸の内一丁目遺跡』  
東京都千代田区一ツ橋二丁目遺跡調査会 1998 『一ツ橋二丁目遺跡』  
東京都千代田区教育委員会 1999 『外神田一丁目遺跡』  
東京都千代田区四番町遺跡調査会 1999 『四番町遺跡』  
江戸城跡北の丸公園地区遺跡調査会 1999 『江戸城跡 北の丸公園地区遺跡』  
法政大学発掘調査委員会・千代田区教育委員会 1999 『法政大学構内遺跡』  
明治大学考古学博物館 2000 『明治大学記念館前遺跡』  
千代田区教育委員会 2001 『岩本町二丁目遺跡』  
千代田区 飯田町遺跡調査会 2001 『飯田町遺跡』  
千代田区 東京駅八重洲北口遺跡調査会 2003 『東京駅八重洲北口遺跡』  
東京都埋蔵文化財センター 2003 『永田町二丁目遺跡』 東京都埋蔵文化財センター調査報告 139  
東京都埋蔵文化財センター 2004 『外神田四丁目遺跡』 東京都埋蔵文化財センター調査報告 147  
千代田区丸の内一丁目遺跡調査会 2005 『丸の内一丁目遺跡Ⅱ』  
千代田区九段南一丁目遺跡調査会(千代田区教育委員会) 2005 『九段南一丁目遺跡』  
文部科学省構内遺跡調査会 2005 『文部科学省構内遺跡』  
武蔵文化財研究所 2006 『千代田区 有楽町二丁目遺跡』  
武蔵文化財研究所 2006 『富士見二丁目遺跡』  
加藤建設 2006 『尾張藩麹町藩邸Ⅲ』  
文部科学省構内遺跡調査会 2006 『文部科学省構内遺跡Ⅱ』  
東京都埋蔵文化財センター 2007 『和泉伯方藩・武蔵岡部藩上屋敷跡遺跡』 東京都埋蔵文化財センター調査報告 216  
加藤建設 2008 『三番町遺跡』  
東京都埋蔵文化財センター 2009 『江戸城跡』 東京都埋蔵文化財センター調査報告 234  
四門 2010 『四番町遺跡Ⅱ』  
四門 2010 『東京都千代田区四番町遺跡Ⅱ』  
東京都埋蔵文化財センター 2011 『千代田区 溜池遺跡』 東京都埋蔵文化財センター調査報告 258  
大成エンジニアリング 2011 『千代田区二番町遺跡』  
四門 2011 『神田淡路町二丁目遺跡』  
東京都埋蔵文化財センター 2011 『永田町一丁目遺跡』 東京

都埋蔵文化財センター調査報告 269  
 加藤建設 2012 『三番町遺跡Ⅱ』  
 大成エンジニアリング 2013 『東京都千代田区紀尾井町遺跡Ⅱ』  
 四門 2014 『九段坂上貝塚遺跡』  
 加藤建設 2014 『大手町一丁目遺跡』  
 加藤建設 2014 『尾張藩麴町邸跡Ⅳ』  
 武蔵文化財研究所 2015 『有楽町一丁目遺跡』  
 加藤建設 2015 『法政大学構内遺跡Ⅱ』  
 大成エンジニアリング 2015 『東京都千代田区阿波徳島藩蜂須賀家上屋敷跡』  
 東京都埋蔵文化財センター 2015 『江戸城跡 三の丸地区』  
 東京都埋蔵文化財センター調査報告 302  
 加藤建設 2016 『筒井家屋敷跡』  
 東京都埋蔵文化財センター 2016 『永田町一丁目遺跡Ⅱ』  
 東京都埋蔵文化財センター調査報告 308  
 千代田区教育委員会 2017 『千代田区 No.34 遺跡』  
 CEL 2018 『一橋徳川家屋敷跡』  
 共和開発 2018 『神田練堀町遺跡』  
 加藤建設 2021 『三番町遺跡Ⅲ』  
 トキオ文化財 2021 『伊勢津藩藤堂家上屋敷跡遺跡』  
 加藤建設 2022 『神田猿楽町一丁目遺跡』  
 加藤建設 2023 『三番町遺跡Ⅳ』  
 アート 2024 『神田橋門跡(東)』

#### 文京区

白山四丁目遺跡調査会 1981 『白山四丁目遺跡』  
 文京区教育委員会 1993 『上富士前町遺跡』  
 文京区遺跡調査会 1993 『新諏訪町遺跡』  
 文京区遺跡調査会 1993 『駕籠町遺跡』  
 文京区遺跡調査会 1994 『原町遺跡』  
 文京区遺跡調査会 1994 『小石川町遺跡』  
 都立学校遺跡調査会 1995 『本郷元町』  
 文京区遺跡調査会 1995 『龍岡町』  
 文京区遺跡調査会 1996 『原町遺跡Ⅱ』  
 文京区遺跡調査会 1996 『弥生町遺跡』  
 地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡調査会 1996 『春日町遺跡・菊坂下遺跡・駒込追分町遺跡・駒込浅嘉町遺跡・駒込富士前町遺跡』  
 文京区遺跡調査会 1996 『春日町遺跡第Ⅴ地点』  
 文京区遺跡調査会 1996 『本郷台遺跡群』  
 文京区遺跡調査会 1996 『諏訪町遺跡』  
 文京区上富士前町遺跡調査会 1997 『上富士前町遺跡第2地点』  
 都立学校調査団 1997 『小石川(Ⅰ 近世・近代遺構編)』  
 東京学芸大学 1997 『讃岐高松藩・陸奥守山藩下屋敷跡』  
 都内遺跡調査会 1997 『駒込鰻縄手 御先手組屋敷』  
 都立学校遺跡調査会 1998 『日影町遺跡Ⅰ』  
 文京区教育委員会 1998 『真砂遺跡第4地点』  
 文京区教育委員会 1998 『神明町貝塚』  
 文京区遺跡調査会 1999 『小日向台町遺跡』  
 文京区遺跡調査会 1999 『春日町遺跡第Ⅵ地点』  
 都立学校遺跡調査会 1999 『本郷元町Ⅲ』  
 都内遺跡調査会・都立文京盲学校遺跡調査班 2000 『小石川牛天神下』

文京区遺跡調査会 2000 『弓町遺跡』  
 文京区遺跡調査会 2000 『指ヶ谷町遺跡』  
 都立学校遺跡調査会 2000 『日影町遺跡Ⅲ-2』  
 文京区遺跡調査会 2000 『春日町遺跡第Ⅲ・Ⅳ地点』  
 文京区遺跡調査会 2000 『林町遺跡第Ⅱ地点』  
 文京区遺跡調査会 2000 『駒込富士前町遺跡第Ⅱ地点』  
 文京区遺跡調査会 2000 『駒込浅嘉町遺跡第Ⅱ地点』  
 東京都埋蔵文化財センター 2002 『お茶の水貝塚 一三楽病院若葉寮地区一』  
 東京都埋蔵文化財センター調査報告 120  
 文京区遺跡調査会 2002 『駒込上富士前町遺跡 第Ⅲ地点』  
 文京区遺跡調査会 2002 『駒込西片町遺跡』  
 文京区遺跡調査会 2003 『一行院跡ほか』  
 文京区遺跡調査会 2003 『大塚遺跡』  
 文京区遺跡調査会 2003 『白山御殿跡ほか』  
 文京区遺跡調査会 2003 『真砂町遺跡第Ⅴ地点』  
 文京区遺跡調査会 2004 『春日町遺跡第Ⅶ地点』  
 武蔵文化財研究所 2004 『原町東遺跡』  
 文京区遺跡調査会 2004 『駒込東片町(鰻縄手)遺跡第Ⅱ地点』  
 東京都埋蔵文化財センター 2004 『駕籠町南遺跡』  
 東京都埋蔵文化財センター調査報告 157  
 テイクイトレード 2005 『動坂遺跡 第3地点』  
 共和開発 2005 『千駄木三丁目南遺跡』  
 加藤建設 2005 『大塚窪町遺跡』  
 加藤建設 2005 『真砂町遺跡第6地点』  
 武蔵文化財研究所 2005 『弓町遺跡第3地点』  
 武蔵文化財研究所 2005 『弓町遺跡第4地点』  
 四門 2005 『弓町遺跡第5地点』  
 岡三リビング 2005 『金富町北遺跡』  
 共和開発 2006 『春日町(小石川後樂園)遺跡 第10地点』  
 共和開発 2006 『春日町(小石川後樂園)遺跡 第9地点』  
 大成エンジニアリング 2006 『三軒町遺跡』  
 文京区教育委員会 2006 『小石川二丁目北遺跡』  
 武蔵文化財研究所 2006 『戸崎町遺跡』  
 大成エンジニアリング 2006 『駒込浅嘉町遺跡 第3地点』  
 加藤建設 2006 『本郷一丁目南遺跡』  
 加藤建設 2007 『昌林院跡』  
 大成エンジニアリング 2007 『龍岡町遺跡 第2地点』  
 共和開発 2007 『千駄木三丁目南遺跡 第2地点』  
 テイクイトレード 2007 『大塚二丁目遺跡』  
 テイクイトレード 2007 『大塚町遺跡第3地点』  
 加藤建設 2007 『真砂町遺跡第7地点』  
 武蔵文化財研究所 2007 『駒込富士前町遺跡 第6地点』  
 大成エンジニアリング 2008 『伝通院裏貝塚』  
 東京都埋蔵文化財センター 2008 『大塚遺跡』  
 東京都埋蔵文化財センター調査報告 223  
 パスコ 2008 『春日一丁目遺跡』  
 大成エンジニアリング 2008 『龍岡町遺跡 第3地点』  
 テイクイトレード 2008 『弓町遺跡第6地点』  
 教育委員会 2008 『昌林院跡 第2地点』  
 加藤建設 2008 『本郷五丁目東遺跡』  
 加藤建設 2008 『本郷五丁目西遺跡』  
 テイクイトレード 2008 『林町遺跡』  
 武蔵文化財研究所 2008 『大塚町遺跡 第5地点』  
 文京区教育委員会 大成エンジニアリング 2009 『弥生町遺

- 跡 第2地点】  
東京都埋蔵文化財センター 2009 『千駄木三丁目北遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 230  
東京都埋蔵文化財センター 2009 『春日二丁目西遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 237  
大成エンジニアリング 2009 『小日向三丁目遺跡』  
大成エンジニアリング 2009 『本郷台遺跡群 第1地点』  
テイケイトレード 2009 『護国寺門前町遺跡』  
文京区教育委員会 2009 『戸崎町遺跡 第2地点』  
東京都埋蔵文化財センター 2010 『大塚町・大塚・大塚二丁目北遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 243  
東京都埋蔵文化財センター 2010 『後楽二丁目南遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 241  
文京区教育委員会 共和開発 2010 『大塚三丁目遺跡』  
大成エンジニアリング 2010 『小石川三丁目東遺跡 第2地点』  
大成エンジニアリング 2010 『小石川三丁目遺跡』  
パスコ 2010 『駒込富士前町遺跡第5地点』  
パスコ 2010 『駒込浅嘉町遺跡第4地点』  
大成エンジニアリング 2010 『駕籠町遺跡 第3地点』  
武蔵文化財研究所 2010 『大塚町遺跡第6地点』  
東京都埋蔵文化財センター 2010 『護国寺境内遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 251  
東京学芸大学考古学研究室 2010 『讃岐高松藩・陸奥守山藩下屋敷跡』  
大成エンジニアリング 2011 『昌林院跡 第4地点』  
文京区教育委員会 2011 『春日町（小石川後樂園）遺跡 第11地点』  
文京区教育委員会 2011 『小日向一・二丁目南遺跡 第2地点』  
パスコ 2011 『本郷台遺跡群 第2地点』  
文京区教育委員会 2012 『文京区音羽二丁目遺跡』  
文京区教育委員会 2012 『春日町（小石川後樂園）遺跡 第14地点』  
武蔵文化財研究所 2012 『動坂遺跡 第4地点』  
文京区教育委員会 2012 『千石四丁目遺跡』  
文京区教育委員会・テイケイトレード 2012 『大塚坂下町遺跡』  
文京区教育委員会・武蔵文化財研究所 2012 『小石川御薬園跡』  
大成エンジニアリング 2012 『弓町遺跡 第8地点』  
大成エンジニアリング 2012 『弓町遺跡 第9地点』  
大成エンジニアリング 2012 『春日町東遺跡』  
教育委員会 2012 『白山五丁目南遺跡』  
大成エンジニアリング 2012 『真砂町遺跡 第9地点』  
文京区教育委員会・武蔵文化財研究所 2012 『駒込追分町南遺跡』  
大成エンジニアリング 2012 『柳沢家駒込屋敷（六義館・六義園）跡』  
文京区教育委員会・テイケイトレード 2013 『小石川植物園西遺跡』  
大成エンジニアリング 2013 『弓町遺跡 第10地点』  
文京区教育委員会 2013 『林町遺跡 第3地点』  
テイケイトレード 2013 『柳沢家駒込屋敷（六義館・六義園）跡 第2地点』  
文京区教育委員会 2013 『正念寺跡』  
文京区教育委員会 2014 『小日向一・二丁目南遺跡』  
パスコ 文化財センター 2014 『小日向三丁目東遺跡 第3地点』  
文京区教育委員会・テイケイトレード 2014 『千石一丁目南遺跡 第2地点』  
文京区教育委員会・武蔵文化財研究所 2014 『戸崎町遺跡 第3地点』  
テイケイトレード 2014 『本郷六丁目遺跡』 142  
大成エンジニアリング 2014 『柳沢家駒込屋敷（六義館・六義園）跡 第3地点』  
大成エンジニアリング 2014 『真砂町遺跡 第10地点』  
パスコ 文化財センター 2014 『護国寺門前町遺跡 第2地点』  
文京区教育委員会・テイケイトレード 2014 『駒込神明町貝塚 第3地点』  
文京区教育委員会・大成エンジニアリング 2015 『本郷元町遺跡 第2地点』  
文京区教育委員会・テイケイトレード 2015 『弓町遺跡 第11地点』  
文京区教育委員会・テイケイトレード 2015 『水道二丁目遺跡 第2地点』  
文京区教育委員会・武蔵文化財研究所 2015 『龍岡町遺跡 第6地点』  
大成エンジニアリング 2015 『龍岡町遺跡 第7地点』  
テイケイトレード 2016 『円林寺跡』  
教育委員会・テイケイトレード 2016 『切支丹屋敷跡』 -1  
東京都東部公園緑地事務所 文京区教育委員会 2016 『国指定特別史跡及び特別名勝小石川後樂園大泉水護岸修復工事に伴う第一次確認調査』  
大成エンジニアリング 2016 『小石川三丁目東遺跡』  
三菱地所レジデンス 加藤建設 2016 『後楽一・二丁目遺跡』  
文京区教育委員会・テイケイトレード 2016 『本郷三丁目南遺跡』  
文京区教育委員会・テイケイトレード 2016 『本郷台町遺跡』  
文京区教育委員会・テイケイトレード 2016 『無量院跡』  
文京区教育委員会・テイケイトレード 2016 『白山五丁目南遺跡 第2地点』  
東京都埋蔵文化財センター 2017 『小日向一丁目北遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 323  
文京区教育委員会・武蔵文化財研究所 2017 『国指定名勝及び史跡小石川植物園（御薬園跡及び養生所跡）第2地点』  
大成エンジニアリング 2017 『本郷台遺跡群 第3地点』  
大成エンジニアリング 2017 『目白台一丁目遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 162  
テイケイトレード 2017 『祥雲寺跡・浄福寺跡』  
加藤建設 2018 『大塚町遺跡 第8地点』  
パリオ・サーヴェイ 2018 『小石川四丁目東遺跡』  
パスコ 2018 『弓町遺跡 第12地点』  
特定非営利活動法人 井草文化財研究所 2018 『後楽一・二丁目遺跡 第2地点』  
文京区教育委員会・テイケイトレード 2018 『春日二丁目南遺跡』  
テイケイトレード 2018 『本郷台遺跡群 第4地点』  
イビソク 2018 『真砂町遺跡 第11地点』

東京都埋蔵文化財センター 2019 『大塚遺跡Ⅱ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 347

東京都埋蔵文化財センター 2019 『小日向一・二丁目南遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 344

東京都埋蔵文化財センター 2019 『文京区春日町（小石川後樂園）遺跡第21地点』東京都埋蔵文化財センター調査報告 340

テイケイトレード 2019 『小日向一丁目北遺跡』

特定非営利活動法人 井草文化財研究所 2019 『小日向一丁目北遺跡 第2地点』

東京都埋蔵文化財センター 2020 『小石川植物園内貝塚・原町遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 351

文京区教育委員会・国際文化財 2020 『千駄木貝塚 第5地点』

CEL 2020 『団子坂上遺跡』

文京区教育委員会 2020 『柳沢家駒込屋敷（六義館・六義園）跡 第4地点』

文京区教育委員会・テイケイトレード 2020 『湯島四丁目遺跡』

文京区教育委員会 2020 『西片二丁目遺跡』

文京区教育委員会 2020 『林町東遺跡』

文京区教育委員会 2021 『国指定特別史跡及び特別名勝小石川後樂園大泉水護岸修復工事に伴う第二次確認調査』

文京区教育委員会 2022 『伝通院裏貝塚 第2地点』

テイケイトレード 2022 『小石川一丁目遺跡』

武蔵文化財研究所 2022 『本郷一丁目南遺跡 第2地点』

文京区教育委員会 2022 『柳町遺跡』

テイケイトレード 2022 『湯島二丁目北遺跡』

文京区教育委員会 2023 『小日向二丁目東遺跡』

文京区教育委員会 2023 『国指定名勝及び史跡小石川植物園（御薬園跡及び養生所跡）第1地点』

武蔵文化財研究所 2023 『春日町（小石川後樂園）遺跡 第22地点』

テイケイトレード 2023 『本郷台遺跡群 第5地点』

文京区教育委員会 2023 『神田上水白堀跡』

文京区教育委員会 2024 『向丘二丁目遺跡』

文京区教育委員会 2024 『林町遺跡 第4地点』

**東京大学**

東京大学遺跡調査室 1989 『理学部7号館地点』

東京大学遺跡調査室 1990 『医学部附属病院地点』

東京大学埋蔵文化財調査室 1990 『山上会館・御殿下記念館地点』

東京大学埋蔵文化財調査室 2005 『医学部附属病院外来診療棟地点（HG）』

東京大学埋蔵文化財調査室 2005 『工学部1号館地点（FE1）』

東京大学埋蔵文化財調査室 2006 『工学部14号館地点（FE14）』

東京大学埋蔵文化財調査室 2009 『浅野地区Ⅰ』

東京大学埋蔵文化財調査室 2011 『教育学部総合研究棟地点（SK）、インテリジェント・モデリング・ラボラトリー地点（IML）』

東京大学埋蔵文化財調査室 2011 『総合研究博物館新館地点（TUM）』

東京大学埋蔵文化財調査室 2012 『医学部附属病院受変電設備棟地点（YM）』

東京大学埋蔵文化財調査室 2016 『医学部附属病院入院棟A地点 報告編』

東京大学埋蔵文化財調査室 2019 『医学部教育研究棟地点 報告編』

東京大学埋蔵文化財調査室 2021 『医学部附属病院 看護職員等宿舍1号棟地点（HN）・臨床試験棟地点・看護職員等宿舍3号棟地点（1）（HN2）』

東京大学埋蔵文化財調査室 2021 『薬学部南館地点（YS）・薬学部資料館地点（FPS）』

東京大学埋蔵文化財調査室 2022 『東京大学白金台構内の遺跡（港区No.135遺跡）医科学研究所附属病院A棟地点 報告編』

東京大学埋蔵文化財調査室 2023 『経済学研究科棟地点（HES99）』 京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書18

東京大学埋蔵文化財調査室 2024 『看護職員等宿舍5号棟地点、看護職員等宿舍3号棟地点（2）』

東京大学埋蔵文化財調査室 2024 『医学部附属病院基幹整備外構施設等地点（HWK6）』

## 港区

旧芝離宮庭園調査団 1988 『旧芝離宮庭園』

白金館址（特別養護老人ホーム建設用地）遺跡調査会 1988 『白金館址遺跡Ⅰ』

天徳寺寺域第3遺跡調査会 1992 『天徳寺寺域第3遺跡発掘調査報告書』

港区教育委員会 1993 『播磨龍野藩脇坂家屋敷跡遺跡新橋停車場構内跡遺跡発掘調査報告書』

（仮称）新スウェーデン大使館建設用地内遺跡調査会 1993 『麻布市兵衛町地区の武家屋敷跡遺跡』

東京都港区教育委員会 1994 『筑前福岡藩黒田家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』

東京都港区教育委員会 1995 『三河臺町遺跡発掘調査報告書』

林野庁六本木宿舎跡地内遺跡調査団 1995 『陸奥八戸藩南部家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』

東京都港区教育委員会 1995 『麻布竜土坂口町屋跡遺跡発掘調査報告書』

地下鉄7号線白金台・東六本木間遺跡調査会 1996 『地下鉄7号線白金台・東六本木間遺跡発掘調査報告書』

港区遺跡調査 1996 『芝田町四丁目町屋跡遺跡発掘調査報告書』

港区No.101遺跡調査団 1997 『三田臺町・三田臺裏町・芝伊皿子臺町屋跡遺跡発掘調査報告書』

東京都埋蔵文化財センター 1997 『汐留遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 37

地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡調査会 1997 『溜池遺跡』

港区教育委員会 1997 『雁木坂上遺跡発掘調査報告書』

港区遺跡調査 1998 『旗本 田中家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』

東京都港区教育委員会 1999 『第1台場遺跡発掘調査報告書』

東京都埋蔵文化財センター 2000 『汐留遺跡Ⅱ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 78

東京都港区教育委員会 2002 『薩摩鹿兒島藩島津家屋敷跡第1遺跡発掘調査報告書』

- 港区教育委員会・港区遺跡調査 2002 『長門府中藩毛利家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 東京都港区教育委員会・港区遺跡調査 2002 『麻布笄橋地区武家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 東京都埋蔵文化財センター 2003 『宇和島藩伊達家屋敷跡遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 141
- 東京都埋蔵文化財センター 2003 『宇和島藩伊達家屋敷跡遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 134
- 港区教育委員会 2003 『旗本柴田家屋敷跡遺跡・勝安房邸跡発掘調査報告書』
- 東京都埋蔵文化財センター 2003 『汐留遺跡Ⅲ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 125
- 港区教育委員会 2003 『越後糸魚川藩松平家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会 2003 『麻布仲ノ町地区武家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 東京都港区教育委員会・港区遺跡調査 2004 『乗泉寺跡・大法寺跡遺跡 円福寺跡遺跡発掘調査報告書』
- 国際航業 2004 『備中新見藩関家屋敷跡』
- 港区教育委員会 2004 『承教寺跡・承教寺門前町屋跡遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会 2004 『近江山上藩稲垣家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会・港区遺跡調査 2004 『長門長府藩毛利家屋敷跡・麻布桜田町屋跡遺跡発掘調査報告書』
- 六本木六丁目地区市街地再開発組合 2004 『長門長府藩毛利家屋敷跡遺跡発掘調査報告書 Ⅱ』
- 港区教育委員会 2005 『播磨赤穂藩森家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会 2005 『筑前福岡藩黒田家屋敷跡第2遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会他 2005 『芝田町五丁目町屋遺跡発掘調査報告書』
- 東京都埋蔵文化財センター 2005 『萩藩毛利家屋敷跡遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 162
- 港区教育委員会・共和開発 2005 『近江山上藩稲垣家屋敷跡発掘調査報告書 Ⅱ』
- 東京都港区教育委員会・盤古堂 2006 『上行寺跡・上行寺門前町屋跡遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会・共和開発 2006 『上野沼田藩土岐家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会 2006 『増上寺寺域第2遺跡発掘調査報告書』
- 東京都埋蔵文化財センター 2006 『汐留遺跡Ⅳ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 189
- 港区教育委員会 2006 『豊後岡藩中川家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会 2006 『陸奥盛岡藩南部家屋敷跡遺跡発掘調査概要報告書』
- 港区教育委員会・岡三リビング 2007 『妙玄院跡・妙玄院門前町屋跡遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会・共和開発 2007 『筑前秋月藩黒田家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会 2008 『石見津和野藩亀井家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 武蔵文化財研究所 2008 『筑前秋月藩黒田家屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
- 東京都埋蔵文化財センター 2009 『愛宕下遺跡 Ⅰ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 226
- 東京都港区教育委員会 2009 『石見津和野藩亀井家屋敷跡遺跡発掘調査報告書 Ⅱ』
- 港区教育委員会 2009 『肥後熊本藩細川家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会 2010 『播磨赤穂藩森家屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
- 慶応義塾大学文学部民族学考古学研究室 2011 『会津藩保科(松平)家屋敷跡遺跡』
- 東京都埋蔵文化財センター 2011 『愛宕下遺跡 Ⅱ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 254
- パスコ 2012 『陸奥八戸藩南部家屋敷跡遺跡・陸奥八戸藩南部家屋敷跡下層遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会・共和開発 2013 『豊後日出藩木下家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 東京都埋蔵文化財センター 2014 『品川台場(第五)遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 290
- 東京都埋蔵文化財センター 2014 『愛宕下遺跡 Ⅲ』東京都埋蔵文化財センター調査報告 286
- 港区教育委員会 2014 『石見津和野藩亀井家屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
- パスコ 2014 『麻布龍土町町屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 東京都スポーツ文化事業団 東京都埋蔵文化財センター 2015 『品川台場(第五)遺跡 2』東京都埋蔵文化財センター調査報告 301
- 共和開発 2015 『常陸下館藩石川家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 東京都埋蔵文化財センター 2015 『旗本花房家屋敷跡遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 306
- 港区教育委員会 2015 『旧白金御料地遺跡確認調査報告書』
- パスコ 2015 『港区No.10・11-2遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会 2015 『長門萩藩毛利家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 武蔵文化財研究所 2016 『武蔵川越藩松平家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会 2016 『肥前五島(福江)藩五島家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会 2016 『豊後森藩久留島家・丹波亀山藩松平家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会 2017 『愛宕下武家屋敷群-旗本大嶋家・旗本水野家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 四門 2017 『旗本妻木家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』
- 東京都埋蔵文化財センター 2017 『旧白金御料地遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 328
- 港区教育委員会 2017 『東京都港区 愛宕下武家屋敷群-陸奥一関藩田村家屋敷跡遺跡-発掘調査報告書』
- 四門 2017 『東京都港区No.105遺跡』
- 東京都埋蔵文化財センター 2017 『紀州徳川家屋敷跡第3遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 326
- 四門 2017 『肥前佐賀藩鍋島家屋敷跡遺跡』
- 港区教育委員会 2017 『肥後熊本藩細川家屋敷跡第2遺跡発掘調査報告書』
- 港区教育委員会 2017 『豊前小倉新田藩小笠原家屋敷跡遺

跡・港区No.170遺跡発掘調査報告書】  
 東京都埋蔵文化財センター 2018 『港区北青山三丁目遺跡』  
 東京都埋蔵文化財センター調査報告 338  
 国際文化財 2018 『石見津和野藩亀井家屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅳ』  
 大成エンジニアリング 2018 『神谷町町屋跡遺跡 発掘調査報告書』  
 港区教育委員会 2018 『越後長岡藩牧野家屋敷跡第3遺跡発掘調査報告書』  
 大成エンジニアリング 2019 『南麻布四丁目武家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』  
 国際文化財 2019 『増上寺子院群－福聚院跡遺跡発掘調査報告書』  
 大成エンジニアリング 2019 『愛宕下武家屋敷群－近江水口藩加藤家屋敷跡遺跡－発掘調査報告書』  
 パスコ 2019 『愛宕下武家屋敷群－鎧小路南地区遺跡発掘調査報告書』  
 国際文化財 2019 『港区No.194遺跡発掘調査報告書』  
 東京都埋蔵文化財センター 2020 『大和芝村藩織田家屋敷跡遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 354  
 港区教育委員会 2020 『天徳寺寺域第5遺跡発掘調査報告書』  
 加藤建設 2020 『旧芝離宮庭園遺跡発掘調査報告書』  
 大成エンジニアリング 2020 『神谷町町屋跡遺跡発掘調査報告書Ⅱ』  
 大成エンジニアリング 2020 『飯倉町一丁目町屋屋敷遺跡発掘調査報告書』  
 四門 2020 『麻布田嶋町町屋跡遺跡』  
 港区教育委員会 2021 『承教寺跡・承教寺門前町屋跡遺跡発掘調査報告書Ⅱ』  
 国際文化財 2021 『旗本土方家屋敷跡遺跡』  
 トキオ文化財・慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室 2021 『東京都港区 三田二丁目遺跡発掘調査報告書』  
 パスコ 2021 『港区 No.199 遺跡発掘調査報告書』  
 イビソク 2021 『港区 白金台町五丁目町屋跡遺跡発掘調査報告書』  
 港区教育委員会・大成エンジニアリング 2021 『港区No.170遺跡発掘調査報告書』  
 四門 2021 『溜池跡遺跡発掘調査報告書』  
 四門 2021 『相模小田原大久保家屋敷跡2・北新網町遺跡発掘調査報告書』  
 港区教育委員会 2022 『丹波篠山藩青山家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』  
 国際文化財 2022 『俊朝寺寺域遺跡発掘調査報告書』  
 大成エンジニアリング 2022 『愛宕下武家屋敷群－陸奥一関

藩田村家屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅱ』  
 港区教育委員会 2022 『港区 No.45 遺跡発掘調査報告書』  
 東京都埋蔵文化財センター 2022 『港区 高輪南町遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告 367  
 パスコ 2022 『相模小田原藩大久保家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』  
 パスコ 2022 『築後久留米藩有馬家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』  
 トキオ文化財 2022 『薩摩鹿兒島藩島津家屋敷跡第3遺跡発掘調査報告書』  
 大成エンジニアリング 2022 『越後長岡藩牧野家屋敷跡第4遺跡発掘調査報告書』  
 パリノ・サーヴェイ 2022 『青山御手大工町町屋跡遺跡発掘調査報告書』  
 国際文化財 2023 『春桃院跡遺跡・善福寺寺域遺跡発掘調査報告書』  
 テイクイトレード 2023 『芝三嶋町町屋跡遺跡発掘調査報告書』  
 港区教育委員会 2024 『増上寺子院群－天陽院遺跡発掘調査報告書』2  
 国際文化財 2024 『芝田四丁目町屋跡遺跡／豊後森藩久留米家・丹波亀山藩松平家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』3

#### 江東区

大成エンジニアリング 2010 『東京都江東区 雲光院遺跡』  
 大成エンジニアリング 2010 『東京都江東区 千田遺跡』

#### 図表出典

- 図1 東京大学埋蔵文化財調査室(2016)Ⅲ-444図 SE484 を 改変  
 図2 「国土数値情報(20万分の1土地分類基本調査 東京)」(<https://nlftp.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/download.html>)「国土数値情報(行政区域データ 第2.3版 東京 平成31年)」([https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v2\\_3.html](https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v2_3.html)) (共に国土交通省)を加工して著者作成  
 図3 表4を元に著者作成  
 表1～3 著者作成  
 表4 以下のデータを元に作成  
 掘井戸数、上水井戸数：大日本私立衛生会 1888 「上水井及掘井現在数」『大日本私立衛生會雑誌』(62)：549-550  
 人口：東京府 1888 『東京府統計書』明治21年，国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/806568>

## **Factors Determining the Distribution of Groundwater Wells in Edo**

Saori IKEMURA

Regarding water management in Edo, waterworks have been widely studied in various fields. In contrast, groundwater wells have received little attention, and especially, macro-scale archaeological studies are scarce. In this research paper, I collected data of excavated groundwater wells from districts that once constituted Edo and applied generalized linear models (GLM) to identify the factors influencing their distribution. I compared several regression models and selected the hurdle negative binomial model as the most suitable. Four explanatory variables representing social and natural environment were included in the analysis. To provide a broader perspective, I also conducted a preliminary analysis of well numbers based on the surveys in early Meiji period. The results suggested that social environmental factors affected the use of groundwater wells stronger than topography.